

0001 生産戦略・設計 > 生産形態・生産方式 | 難易度：基礎

論点：個別生産の特徴として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「これは大量生産・連続的なライン生産に近い。」

- ア：対応する記述：標準化された単一製品を長期間にわたり大量反復生産する形態だけを指す
- イ：対応する記述：顧客ごとの仕様差が大きい製品を、注文に応じて少量または一品ずつ生産する形態に適している
- ウ：対応する記述：需要がなくても常に最大稼働率で製造することを目的とする
- エ：対応する記述：工程順序が必ず全製品で同一になる

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。これは大量生産・連続的なライン生産に近い。
イ：この記述の評価理由は「個別生産は品種が多く数量が少ない状況に適し、汎用設備や熟練作業への依存が比較的大きい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「生産形態の定義ではなく、過剰生産を招く可能性がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「個別生産では製品ごとに工程経路が異なることが多い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「標準化された単一製品を長期間にわたり大量反復生産する形態だけを指す」という記述に対応する。これは大量生産・連続的なライン生産に近い。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0002 生産戦略・設計 > 生産形態・生産方式 | 難易度：基礎

論点：ロット生産の説明として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「ロット生産では段取り替えを伴い、ロットサイズは在庫・段取り・需要変動などとのトレードオフで決まる。」

- ア：対応する記述：材料を連続投入し化学的に連続変換することだけを意味する
- イ：対応する記述：同一品種を一定数量まとめて生産し、品種を切り替えながら複数品種を生産する
- ウ：対応する記述：設備を全く切り替えず単一品種だけを永久に生産する
- エ：対応する記述：1個ごとに必ず顧客仕様が完全に異なる

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「これは連続生産の典型である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。ロット生産では段取り替えを伴い、ロットサイズは在庫・段取り・需要変動などとのトレードオフで決まる。
ウ：この記述の評価理由は「ロット生産は品種切替を前提とすることが多い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「これは個別生産の典型に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「同一品種を一定数量まとめて生産し、品種を切り替えながら複数品種を生産する」という記述に対応する。ロット生産では段取り替えを伴い、ロットサイズは在庫・段取り・需要変動などとのトレードオフで決まる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0003

生産戦略・設計 > 生産形態・生産方式 | 難易度：基礎

論点：見込生産（Make-to-Stock）と受注生産（Make-to-Order）の違いとして最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「注文起点が異なるため特性は異なる。」

ア：対応する記述：見込生産では需要予測を一切使わない

イ：対応する記述：見込生産は需要予測に基づき完成品在庫を先行形成し、受注生産は顧客注文を受けてから主として生産を開始する

ウ：対応する記述：両者は在庫位置も納期特性も常に同一である

エ：対応する記述：受注生産では顧客注文より前に必ず完成品を大量保有する

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「見込生産では需要予測が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「両者は顧客注文の到着点と在庫を持つ位置が異なり、納期・在庫・カスタマイズ性のバランスが変わる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。注文起点が異なるため特性は異なる。

エ：この記述の評価理由は「これは見込生産の特徴に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「両者は在庫位置も納期特性も常に同一である」という記述に対応する。注文起点が異なるため特性は異なる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0004

生産戦略・設計 > 生産形態・生産方式 | 難易度：基礎

論点：フローショップ型の工程に最も当てはまりやすい説明はどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「これはジョブショップの特徴に近い。」

ア：対応する記述：多くの製品がほぼ共通の工程順序で流れ、工程間の流れを連続化・同期化しやすい

イ：対応する記述：製品は移動せず人員・設備が製品の場所へ移動する

ウ：対応する記述：工程順序を考えず機械を無作為に配置する

エ：対応する記述：各製品が全く異なる工程経路を自由に選ぶ

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「フローショップは製品の工程経路が類似しており、製品別配置やライン化と親和性が高い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「固定位置レイアウトの特徴である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「工程設計上の合理性がない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これはジョブショップの特徴に近い。

総合解説：提示された評価理由は「各製品が全く異なる工程経路を自由に選ぶ」という記述に対応する。これはジョブショップの特徴に近い。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0005 生産戦略・設計 > 生産形態・生産方式 | 難易度：標準

論点：ジョブショップ型生産の運営上の課題として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「ジョブショップは柔軟性が高い反面、スケジューリングと進捗管理の複雑性が高い。」

- ア：対応する記述：品種ごとに工程経路や処理時間が異なるため、負荷調整や仕掛品・納期管理が複雑になりやすい
- イ：対応する記述：設備専用化が極端に高く品種変更が不可能である
- ウ：対応する記述：仕掛品は理論上必ずゼロになる
- エ：対応する記述：工程経路が完全に固定されるため日程計画が不要になる

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。ジョブショップは柔軟性が高い反面、スケジューリングと進捗管理の複雑性が高い。
イ：この記述の評価理由は「一般に汎用設備を用いて柔軟性を確保する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「待ちや移動が生じやすく仕掛品が増える場合がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「工程経路が多様なためむしろ計画が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「品種ごとに工程経路や処理時間が異なるため、負荷調整や仕掛品・納期管理が複雑になりやすい」という記述に対応する。ジョブショップは柔軟性が高い反面、スケジューリングと進捗管理の複雑性が高い。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0006 生産戦略・設計 > 生産形態・生産方式 | 難易度：標準

論点：セル生産方式の狙いとして最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「移動距離を増やしセルの目的に反する。」

- ア：対応する記述：需要変動に関係なく専用ラインを最大長にする
- イ：対応する記述：同種設備を工場内で可能な限り遠く離して配置する
- ウ：対応する記述：類似した製品群に必要な設備や作業を近接配置し、多工程持ちなどにより流れの短縮と柔軟性向上を図る
- エ：対応する記述：作業者の担当工程を必ず1工程だけに固定する

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「柔軟性を損なう可能性がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。移動距離を増やしセルの目的に反する。
ウ：この記述の評価理由は「セル生産はグループテクノロジー等を背景に、機能別配置の移動ロスとラインの硬直性の中間を狙う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「多工程持ちを活用する場合がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「同種設備を工場内で可能な限り遠く離して配置する」という記述に対応する。移動距離を増やしセルの目的に反する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0007 生産戦略・設計 > 生産形態・生産方式 | 難易度：標準

論点：平準化生産の考え方として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「平準化は生産量と品種ミックスをならし、JITを安定させる基盤となる。」

- ア：対応する記述：段取り替えを避けるため月1回だけ単一品種を大量生産する
- イ：対応する記述：需要のピーク時だけまとめて全量を作り、他期間は停止することを常に目指す
- ウ：対応する記述：数量や品種の生産変動を時間的に平滑化し、後工程・前工程の負荷変動や在庫の増幅を抑える
- エ：対応する記述：需要情報を前工程へ伝えない

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「大ロット化は在庫とリードタイムを増やしやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「大きな負荷変動を生み平準化と反対である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。平準化は生産量と品種ミックスをならし、JITを安定させる基盤となる。
エ：この記述の評価理由は「工程間の同期化を損なう。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「数量や品種の生産変動を時間的に平滑化し、後工程・前工程の負荷変動や在庫の増幅を抑える」という記述に対応する。平準化は生産量と品種ミックスをならし、JITを安定させる基盤となる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0008 生産戦略・設計 > 生産形態・生産方式 | 難易度：標準

論点：マス・カスタマイゼーションの説明として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「共通化・モジュール化は有力な実現手段である。」

- ア：対応する記述：顧客ごとの仕様差を完全に禁止する
- イ：対応する記述：一品生産だけを意味し規模の効率は考慮しない
- ウ：対応する記述：標準化・モジュール化・柔軟なプロセス等を活用し、大量生産に近い効率と顧客別対応を両立しようとする
- エ：対応する記述：標準部品やモジュールの共通化を避ける

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「カスタマイズ性を否定している。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「大量生産の効率との両立が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「マス・カスタマイゼーションは規模の効率を保ちながら多様な顧客要求へ対応する考え方である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。共通化・モジュール化は有力な実現手段である。
総合解説：提示された評価理由は「標準部品やモジュールの共通化を避ける」という記述に対応する。共通化・モジュール化は有力な実現手段である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0009 生産戦略・設計 > 生産形態・生産方式 | 難易度：標準

論点：タクトタイムの考え方として最も適切なものはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「これはMTBFである。」

- ア：対応する記述：設備の平均故障間隔を表す指標である
- イ：対応する記述：需要量に関係なく常に機械の最短加工時間と等しい
- ウ：対応する記述：顧客需要に必要な生産ペースを表し、利用可能な生産時間を必要数量で割って求める
- エ：対応する記述：1ロットの段取り時間だけを表す

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。これはMTBFである。
イ：この記述の評価理由は「タクトは需要側から決まるベースである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「タクトタイムは需要に合わせる基準時間であり、工程設計や人員配置の基準になる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「段取り時間とは別概念である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「設備の平均故障間隔を表す指標である」という記述に対応する。これはMTBFである。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0010 生産戦略・設計 > 生産形態・生産方式 | 難易度：標準

論点：柔軟生産システム（FMS）の特徴として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「FMSは自動化と柔軟性を組み合わせ、多品種中量領域等で効率化を狙う。」

- ア：対応する記述：単一製品専用設備だけで構成し品種変更を排除する
- イ：対応する記述：数値制御設備や自動搬送・情報制御を組み合わせ、複数品種を比較的少ない段取りで柔軟に生産する
- ウ：対応する記述：生産計画情報と設備制御を切り離すことを目的とする
- エ：対応する記述：材料搬送はすべて手作業に限定する

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「柔軟性を否定している。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。FMSは自動化と柔軟性を組み合わせ、多品種中量領域等で効率化を狙う。
ウ：この記述の評価理由は「統合的な情報制御が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「自動搬送を含むことが多い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「数値制御設備や自動搬送・情報制御を組み合わせ、複数品種を比較的少ない段取りで柔軟に生産する」という記述に対応する。FMSは自動化と柔軟性を組み合わせ、多品種中量領域等で効率化を狙う。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0011 生産戦略・設計 > 生産形態・生産方式 | 難易度：応用

論点：需要量は中程度だが、顧客仕様の組合せが多く、共通モジュールを組み合わせれば短納期対応できる製品に適した生産戦略として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「品種数が多いと在庫リスクが高まりやすい。」

- ア：対応する記述：顧客仕様を一切受け付けず単一仕様へ固定する
- イ：対応する記述：共通モジュールを見込生産し、受注後に最終構成を決める延期（postponement）型の組立方式
- ウ：対応する記述：全最終仕様を需要予測だけで完成品在庫として大量保有する
- エ：対応する記述：共通部品を使わず、受注後に原材料開発から毎回開始する

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「前提の顧客多様性への対応にならない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「顧客注文まで差別化を遅らせることで、部品共通化による効率と最終製品多様性を両立できる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。品種数が多いと在庫リスクが高まりやすい。
- エ：この記述の評価理由は「短納期を実現しにくい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「全最終仕様を需要予測だけで完成品在庫として大量保有する」という記述に対応する。品種数が多いと在庫リスクが高まりやすい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0012 生産戦略・設計 > 生産形態・生産方式 | 難易度：応用

論点：高品種・低量から低品種・高量へ需要特性が変化した場合のプロセス選択として一般に最も合理的な方向はどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「数量が増え品種が絞られるほど、専用化・標準化による高効率プロセスが適合しやすい。」

- ア：対応する記述：品種が減るほど工程経路を複雑化する必要がある
- イ：対応する記述：需要特性とプロセス選択には関係がない
- ウ：対応する記述：数量が増えるほど必ず固定位置レイアウトへ移行する
- エ：対応する記述：ジョブショップ的な汎用工程から、より流れを重視したライン・連続的プロセスへ専用化を進める余地が大きくなる

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「標準化された流れを設計しやすくなる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「製品・数量特性とプロセス適合は運営戦略の中心課題である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「固定位置は大型・移動困難な製品などに向く。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。数量が増え品種が絞られるほど、専用化・標準化による高効率プロセスが適合しやすい。

総合解説：提示された評価理由は「ジョブショップ的な汎用工程から、より流れを重視したライン・連続的プロセスへ専用化を進める余地が大きくなる」という記述に対応する。数量が増え品種が絞られるほど、専用化・標準化による高効率プロセスが適合しやすい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0013 生産戦略・設計 > 製品開発・設計・VE/VA | 難易度：基礎

論点：VE（Value Engineering）における価値の捉え方として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「必要機能を確実に達成しながら価値を高める。」

- ア：対応する記述：価値向上とは品質を落として原価だけを下げることの意味する
- イ：対応する記述：必要な機能を達成する程度と、そのために要するコストとの関係で価値を捉える
- ウ：対応する記述：価値は販売価格だけで決まり機能は考慮しない
- エ：対応する記述：コストを上げるほど価値は必ず高まる

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。必要機能を確実に達成しながら価値を高める。
イ：この記述の評価理由は「VEは機能本位で価値を考え、必要機能を最低のライフサイクルコスト等で実現することを目指す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「VEでは機能が中心概念である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「機能との関係で評価するため単純ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「価値向上とは品質を落として原価だけを下げることの意味する」という記述に対応する。必要機能を確実に達成しながら価値を高める。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0014 生産戦略・設計 > 製品開発・設計・VE/VA | 難易度：基礎

論点：VEで『機能本位』に考える意義として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「機能本位は現行手段への固執を避ける。」

- ア：対応する記述：顧客が必要とする機能を無視する
- イ：対応する記述：現行部品を絶対に変更しないことを保証する
- ウ：対応する記述：設計者一人だけで検討し他部門の知識を排除する
- エ：対応する記述：既存の部品や方式を前提とせず、製品が本来果たすべき働きから代替案を発想できる

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「使用者優先・必要機能の把握が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。機能本位は現行手段への固執を避ける。
ウ：この記述の評価理由は「VEはチームデザインを重視する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「機能を抽象化することで現行手段への固定観念を外し、より良い達成手段を探索できる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「現行部品を絶対に変更しないことを保証する」という記述に対応する。機能本位は現行手段への固執を避ける。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0015

生産戦略・設計 > 製品開発・設計・VE/VA | 難易度：基礎

論点：一般に、VEとVA（Value Analysis）の使い分けとして最も適切な説明はどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「両者は機能とコストを重視する点で近いが、適用時点の違いとして説明されることが多い。」

ア：対応する記述：VEは製造後の不良修理だけ、VAは財務分析だけを指す

イ：対応する記述：VAは新製品の顧客要求を把握することを禁止する

ウ：対応する記述：VEは企画・設計段階から価値向上を織り込み、VAは既存製品・既存工程の改善に価値分析を適用する文脈で使われることが多い

エ：対応する記述：VEとVAは品質を無視して原価を削減する手法である

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「いずれも価値向上手法としての説明ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「そのような禁止概念ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。両者は機能とコストを重視する点で近いが、適用時点の違いとして説明されることが多い。

エ：この記述の評価理由は「必要機能の確保が前提である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「VEは企画・設計段階から価値向上を織り込み、VAは既存製品・既存工程の改善に価値分析を適用する文脈で使われることが多い」という記述に対応する。両者は機能とコストを重視する点で近いが、適用時点の違いとして説明されることが多い。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0016

生産戦略・設計 > 製品開発・設計・VE/VA | 難易度：標準

論点：コンカレント・エンジニアリングの狙いとして最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「直列的開発で手戻りが増えやすい。」

ア：対応する記述：設計・生産技術・調達・品質・サービス等が開発初期から並行して関与し、後工程での手戻りと開発期間を減らす

イ：対応する記述：各部門が互いの制約を知らず独立最適化する

ウ：対応する記述：開発の各段階を必ず一つずつ完了してから次へ進む

エ：対応する記述：製品設計が完全終了するまで生産部門は情報を受け取らない

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「下流部門の要件を早期に設計へ反映し、直列的な引渡しよりも総開発リードタイム短縮を狙う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「部門横断の同時並行協働が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「コンカレントの考え方と反対である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。直列的開発で手戻りが増えやすい。

総合解説：提示された評価理由は「製品設計が完全終了するまで生産部門は情報を受け取らない」という記述に対応する。直列的開発で手戻りが増えやすい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0017 生産戦略・設計 > 製品開発・設計・VE/VA | 難易度：標準

論点：QFD（品質機能展開）の利用目的として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「QFDは顧客の声を設計・製造の具体的特性へ体系的に展開する。」

- ア：対応する記述：顧客要求を製品・部品・工程などの技術特性へ展開し、開発段階で要求と設計仕様を結び付ける
- イ：対応する記述：設備故障の平均修復時間だけを測定する
- ウ：対応する記述：完成後の検査だけで品質を保証する
- エ：対応する記述：財務諸表の勘定科目を工程別に配賦する

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。QFDは顧客の声を設計・製造の具体的特性へ体系的に展開する。
イ：この記述の評価理由は「設備保全指標の領域である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「QFDは上流で要求を設計へ反映する考え方である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「QFDの目的ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「顧客要求を製品・部品・工程などの技術特性へ展開し、開発段階で要求と設計仕様を結び付ける」という記述に対応する。QFDは顧客の声を設計・製造の具体的特性へ体系的に展開する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0018 生産戦略・設計 > 製品開発・設計・VE/VA | 難易度：標準

論点：モジュール設計の利点として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「組合せ多様性を高める用途がある。」

- ア：対応する記述：設計変更の影響範囲を必ず製品全体へ拡大する
- イ：対応する記述：顧客仕様の組合せを減らすことだけを目的とする
- ウ：対応する記述：製品ごとにすべての部品を専用化し共通化をなくす
- エ：対応する記述：共通インターフェースで部品群を組み合わせ、部品共通化を保ちながら製品バリエーションを増やしやすい

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「適切なインターフェースは変更影響の局所化にも役立つ。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。組合せ多様性を高める用途がある。
ウ：この記述の評価理由は「モジュール化の利点と反対である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「モジュール化は多様性と規模の経済・保守性の両立に寄与する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「顧客仕様の組合せを減らすことだけを目的とする」という記述に対応する。組合せ多様性を高める用途がある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0019 生産戦略・設計 > 製品開発・設計・VE/VA | 難易度：標準

論点：部品の標準化・共通化を進める効果として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「モジュール構成等で差別化との両立も可能である。」

- ア：対応する記述：品目数削減により調達量の集約、在庫削減、設計・保守の簡素化などが期待できる
- イ：対応する記述：共通化すると品質管理が不可能になる
- ウ：対応する記述：製品差別化の余地が必ず完全になる
- エ：対応する記述：購入数量が集約されても調達条件には一切影響しない

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「共通部品の利用は規模効果と管理複雑性の低減につながる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「むしろ標準化により管理しやすくなる面がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。モジュール構成等で差別化との両立も可能である。
 - エ：この記述の評価理由は「集約は交渉力や単価に影響する可能性がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- 総合解説：提示された評価理由は「製品差別化の余地が必ず完全になる」という記述に対応する。モジュール構成等で差別化との両立も可能である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0020 生産戦略・設計 > 製品開発・設計・VE/VA | 難易度：標準

論点：DFMA（Design for Manufacture and Assembly）の考え方として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「製造・組立性を上流設計へ織り込み、後工程の複雑性や手戻りを減らす。」

- ア：対応する記述：製造方法は設計完成後にだけ検討する
- イ：対応する記述：組立工数を増やすほど品質が高まるとみなす
- ウ：対応する記述：部品点数を増やすことを第一目的とする
- エ：対応する記述：製品設計段階で、製造・組立のしやすさや部品点数、締結方法等を考慮し、総コストと品質を改善する

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「上流で製造性を考慮する考え方と反対である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「工数増は必ずしも価値向上にならない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：この記述の評価理由は「一般には不必要な部品や工程の削減を検討する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。製造・組立性を上流設計へ織り込み、後工程の複雑性や手戻りを減らす。
- 総合解説：提示された評価理由は「製品設計段階で、製造・組立のしやすさや部品点数、締結方法等を考慮し、総コストと品質を改善する」という記述に対応する。製造・組立性を上流設計へ織り込み、後工程の複雑性や手戻りを減らす。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0021 生産戦略・設計 > 製品開発・設計・VE/VA | 難易度：応用

論点：目標原価の考え方を製品開発に利用する場合の説明として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「上流での原価作り込みと反対である。」

- ア：対応する記述：完成後に実際原価が出るまで原価目標を設定しない
- イ：対応する記述：必要利益を無視して機能を追加し続ける
- ウ：対応する記述：市場で受容される価格と必要利益から許容原価を逆算し、設計段階で原価企画を進める
- エ：対応する記述：販売価格は実際原価に任意の利益を加えて必ず決める

答え・解説 正答：ア

- ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。上流での原価作り込みと反対である。
- イ：この記述の評価理由は「価値と収益性の両立が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「原価の多くが設計段階で拘束されるため、上流で機能・仕様・コストを同時に設計することが重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：この記述の評価理由は「市場価格を所与とする考え方とは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「完成後に実際原価が出るまで原価目標を設定しない」という記述に対応する。上流での原価作り込みと反対である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0022 生産戦略・設計 > 製品開発・設計・VE/VA | 難易度：応用

論点：設計変更によるコスト削減案を評価する際に、VEの観点から最も適切な判断はどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「安価な代替案でも機能低下や保守費増が大きければ価値向上とはいえない。」

- ア：対応する記述：購入価格が最安なら機能低下があっても自動的に採用する
- イ：対応する記述：初期購入費だけでなく、必要機能の充足と保守・運用を含むライフサイクルコストを確認して価値を比較する
- ウ：対応する記述：設計コスト以外の運用・保守費は評価対象から除外する
- エ：対応する記述：顧客要求は評価せず社内都合だけで決める

答え・解説 正答：イ

- ア：この記述の評価理由は「必要機能の達成が前提である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。安価な代替案でも機能低下や保守費増が大きければ価値向上とはいえない。
- ウ：この記述の評価理由は「ライフサイクルの観点が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：この記述の評価理由は「使用者優先がVEの基本である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「初期購入費だけでなく、必要機能の充足と保守・運用を含むライフサイクルコストを確認して価値を比較する」という記述に対応する。安価な代替案でも機能低下や保守費増が大きければ価値向上とはいえない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0023 生産戦略・設計 > 設備配置・工程設計 | 難易度：基礎

論点：製品別レイアウト（product layout）が適しやすい状況はどれか。 学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「工程別レイアウトの説明である。」

- ア：対応する記述：標準化された製品を大量に反復生産し、ほぼ同一の工程順序で流す場合
- イ：対応する記述：大型船のように製品を移動させにくい場合
- ウ：対応する記述：設備を機能別にまとめて多様な経路に対応する場合
- エ：対応する記述：品種ごとに工程経路が大きく異なる少量生産

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「製品別配置は工程順に設備を並べ、流れの単純化と高い処理効率を狙う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「固定位置レイアウトが適する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。工程別レイアウトの説明である。
エ：この記述の評価理由は「工程別レイアウトの方が柔軟性を得やすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「設備を機能別にまとめて多様な経路に対応する場合」という記述に対応する。工程別レイアウトの説明である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0024 生産戦略・設計 > 設備配置・工程設計 | 難易度：基礎

論点：固定位置レイアウトが適しやすい対象はどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「製品別レイアウトが適しやすい。」

- ア：対応する記述：小型製品群をセル内で流す工程
- イ：対応する記述：建造中の船舶や大型建設物など、製品自体の移動が困難な対象
- ウ：対応する記述：多様な加工依頼を機能別設備で処理する工場
- エ：対応する記述：小型部品を毎秒大量に流す組立ライン

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「セルレイアウトに近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「固定位置では製品を固定し、人・設備・資材を現場へ移動させる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「工程別レイアウトが適しやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。製品別レイアウトが適しやすい。
総合解説：提示された評価理由は「小型部品を毎秒大量に流す組立ライン」という記述に対応する。製品別レイアウトが適しやすい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0025 生産戦略・設計 > 設備配置・工程設計 | 難易度：標準

論点：工程別レイアウトの特徴として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「工程別配置は多品種少量に適するが、運搬や待ち、日程管理は複雑になりやすい。」

- ア：対応する記述：同種機能の設備をまとめ、多様な製品をそれぞれ必要な工程経路へ流すため柔軟性が高い
- イ：対応する記述：全製品を同一順序で一方向に流すことを前提とする
- ウ：対応する記述：製品を固定し設備を移動する
- エ：対応する記述：設備間の移動距離が常に最小になる

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。工程別配置は多品種少量に適するが、運搬や待ち、日程管理は複雑になりやすい。
イ：この記述の評価理由は「製品別レイアウトの特徴である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「固定位置レイアウトである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「工程経路が交錯し移動距離が増える場合がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「同種機能の設備をまとめ、多様な製品をそれぞれ必要な工程経路へ流すため柔軟性が高い」という記述に対応する。工程別配置は多品種少量に適するが、運搬や待ち、日程管理は複雑になりやすい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0026 生産戦略・設計 > 設備配置・工程設計 | 難易度：標準

論点：設備配置を検討する際、From-Toチャートを使う主な目的として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「物流分析の道具である。」

- ア：対応する記述：製品の市場価格を決定する
- イ：対応する記述：従業員満足度だけを測定する
- ウ：対応する記述：設備の故障率だけを推定する
- エ：対応する記述：部門・工程間の物流量や移動頻度を把握し、移動コストの大きい関係を近接配置する判断材料にする

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「レイアウト設計とは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。物流分析の道具である。
ウ：この記述の評価理由は「保全指標の用途ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「物流量×距離などの観点で配置案を比較するために用いられる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「従業員満足度だけを測定する」という記述に対応する。物流分析の道具である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0027 生産戦略・設計 > 設備配置・工程設計 | 難易度：標準

論点：ある組立ラインでは1日420分稼働し、1日140個の需要を満たす必要がある。工程作業時間の合計は8分である。理論上のタクトタイムと最小作業ステーション数の組合せとして最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「 $420分 \div 140個 = 3分/個$ 。合計作業時間 $8分 \div 3分 = 2.67$ なので、理論上少なくとも3ステーションが必要である。」

ア：対応する記述：タクトタイム2分、最小4ステーションである。需要数量ではなく作業時間合計だけを使っている

イ：対応する記述：タクトタイム3分、最小2ステーションである。2ステーションでは合計能力が不足する

ウ：対応する記述：タクトタイム3分、理論最小ステーション数は3である

エ：対応する記述：タクトタイム8分、最小1ステーションである。作業時間合計をそのままタクトとしている

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「タクトは利用可能時間÷需要量で計算する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「 $8 \div 3$ を切り上げる必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。 $420分 \div 140個 = 3分/個$ 。合計作業時間 $8分 \div 3分 = 2.67$ なので、理論上少なくとも3ステーションが必要である。

エ：この記述の評価理由は「需要ベースを反映していない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「タクトタイム3分、理論最小ステーション数は3である」という記述に対応する。 $420分 \div 140個 = 3分/個$ 。合計作業時間 $8分 \div 3分 = 2.67$ なので、理論上少なくとも3ステーションが必要である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0028 生産戦略・設計 > 設備配置・工程設計 | 難易度：標準

論点：工程Aの能力が毎時20個、工程Bが毎時15個、工程Cが毎時24個で直列につながっている。設備間に十分なバッファがある場合、ライン全体の持続的最大スループットを最も強く制約する工程はどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「直列システムでは平均ではなく制約能力が重要である。」

ア：対応する記述：工程Bであり、毎時15個がボトルネック能力となる

イ：対応する記述：工程Aであり、最初の工程だから必ずボトルネックになる

ウ：対応する記述：工程Cであり、能力が最も高いから制約になる

エ：対応する記述：3工程の平均能力19.7個/時が必ずスループットになる

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「直列工程の持続的スループットは最も能力の低い制約工程に上限を受ける。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「位置ではなく能力と負荷で決まる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「能力が高いため制約になりにくい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。直列システムでは平均ではなく制約能力が重要である。

総合解説：提示された評価理由は「3工程の平均能力19.7個/時が必ずスループットになる」という記述に対応する。直列システムでは平均ではなく制約能力が重要である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0029 生産戦略・設計 > 設備配置・工程設計 | 難易度：応用

論点：U字型ラインを採用する利点として最も適切なものはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「近接性はむしろ連携を高める。」

- ア：対応する記述：工程間のコミュニケーションを意図的に遮断する
- イ：対応する記述：製品を工場内で最長距離移動させる
- ウ：対応する記述：作業者を1台の設備だけに固定することを必須とする
- エ：対応する記述：入口と出口を近づけ、多工程持ちの作業者が複数工程を回りにやすくし、需要変化に応じた人員調整を行いやすい

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。近接性はむしろ連携を高める。
イ：この記述の評価理由は「移動短縮を狙う場合が多い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「多工程持ちを活用できる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「U字型は視認性・歩行・多工程持ち・人員柔軟性の面でJITと相性がよい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「工程間のコミュニケーションを意図的に遮断する」という記述に対応する。近接性はむしろ連携を高める。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0030 生産戦略・設計 > 設備配置・工程設計 | 難易度：応用

論点：グループテクノロジーを用いたセルレイアウトの設計として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「類似部品群の工程をセル内で完結させ、運搬・待ち・仕掛品を減らすことを狙う。」

- ア：対応する記述：部品ファミリーごとに必ず独立工場を建設する
- イ：対応する記述：形状・加工工程などが類似する部品をファミリー化し、その部品群に必要な異種設備を一つのセルへまとめる
- ウ：対応する記述：同じ種類の設備だけを一箇所へ集め、すべての部品を工場中で往復させる
- エ：対応する記述：製品分類を行わず全設備を無作為配置する

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「セルは工場内の配置単位として構成できる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。類似部品群の工程をセル内で完結させ、運搬・待ち・仕掛品を減らすことを狙う。
ウ：この記述の評価理由は「工程別レイアウトの特徴である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「GTの考え方と反対である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「形状・加工工程などが類似する部品をファミリー化し、その部品群に必要な異種設備を一つのセルへまとめる」という記述に対応する。類似部品群の工程をセル内で完結させ、運搬・待ち・仕掛品を減らすことを狙う。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0031 生産計画・統制 > 需要予測・生産計画 | 難易度：基礎

論点：定性的需要予測が特に有用な状況として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「定量手法を使いやすい状況である。」

- ア：対応する記述：新製品で十分な過去データがなく、専門家判断や市場調査を組み合わせる必要がある場合
- イ：対応する記述：予測担当者の知識を一切使わない場合
- ウ：対応する記述：長期の安定した時系列データが大量にあり、季節性も明確な場合だけ
- エ：対応する記述：実績データの単純平均を計算することだけを意味する

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「時系列データが乏しい新市場ではデルファイ法、専門家意見、市場調査等の定性的手法が有効になる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「定性的予測は判断を活用する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。定量手法を使いやすい状況である。
 - エ：この記述の評価理由は「これは定量的手法である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- 総合解説：提示された評価理由は「長期の安定した時系列データが大量にあり、季節性も明確な場合だけ」という記述に対応する。定量手法を使いやすい状況である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0032 生産計画・統制 > 需要予測・生産計画 | 難易度：基礎

論点：単純移動平均法で直近3期間の需要が100、110、130であった。次期予測として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「 $(100+110+130) \div 3 = 113.3$ である。」

- ア：対応する記述：130であり、直近値だけを予測値としている
- イ：対応する記述：120であり、最大値と最小値だけを平均している
- ウ：対応する記述：340であり、平均を取らず合計値を予測としている
- エ：対応する記述：約113.3であり、3期間の需要を同じ重みで平均している

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「これはナイーブ予測に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「3期間移動平均では全3値を使う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：この記述の評価理由は「単位も需要1期間分として不適切である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。 $(100+110+130) \div 3 = 113.3$ である。
- 総合解説：提示された評価理由は「約113.3であり、3期間の需要を同じ重みで平均している」という記述に対応する。 $(100+110+130) \div 3 = 113.3$ である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0033 生産計画・統制 > 需要予測・生産計画 | 難易度：基礎

論点：指数平滑法で平滑化定数 α を大きくした場合の一般的な効果として最も適切なものはどれか。
。 学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「単純指数平滑だけでは季節性処理は十分でない。」

- ア：対応する記述：季節性が自動的に完全除去される
- イ：対応する記述：予測誤差が理論上必ずゼロになる
- ウ：対応する記述：直近の実績値により大きな重みが置かれ、需要変化への反応が速くなる一方、ランダム変動にも敏感になる
- エ：対応する記述：過去の予測だけを重視し直近実績の影響が小さくなる

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。単純指数平滑だけでは季節性処理は十分でない。
イ：この記述の評価理由は「 α 選択だけで誤差ゼロは保証されない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「 α が大きいほど新しい観測値を重視する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「 α が小さい場合の傾向である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「季節性が自動的に完全除去される」という記述に対応する。単純指数平滑だけでは季節性処理は十分でない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0034 生産計画・統制 > 需要予測・生産計画 | 難易度：標準

論点：需要予測精度を比較する指標のうち、誤差の絶対値を平均するものはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「MSEは誤差の二乗を平均する。」

- ア：対応する記述：MAD（平均絶対偏差）
- イ：対応する記述：MSEは誤差をそのまま符号付きで平均する指標である
- ウ：対応する記述：MAPEは誤差額を二乗して平均する
- エ：対応する記述：累積誤差は絶対値を必ず使う

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「MADは各期の予測誤差の絶対値を平均するため、正負の誤差が相殺されない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。MSEは誤差の二乗を平均する。
ウ：この記述の評価理由は「MAPEは絶対百分率誤差の平均である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「累積誤差は通常符号付き誤差を積み上げる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「MSEは誤差をそのまま符号付きで平均する指標である」という記述に対応する。MSEは誤差の二乗を平均する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0035

生産計画・統制 > 需要予測・生産計画 | 難易度：標準

論点：需要予測のバイアスを監視する目的として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「単発誤差ではなく系統的な偏りを確認し、計画在庫や能力への悪影響を防ぐ。」

ア：対応する記述：需要変動を意図的に大きくする

イ：対応する記述：実績と予測が違えばモデルを必ず全面廃止する

ウ：対応する記述：予測が継続的に過大または過小の一方へ偏っていないかを検出する

エ：対応する記述：予測誤差の大きさだけを見て符号を無視する

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「監視の目的ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「偶然変動と系統誤差を区別する必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。単発誤差ではなく系統的な偏りを確認し、計画在庫や能力への悪影響を防ぐ。

エ：この記述の評価理由は「バイアス検出には正負の方向性が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「予測が継続的に過大または過小の一方へ偏っていないかを検出する」という記述に対応する。単発誤差ではなく系統的な偏りを確認し、計画在庫や能力への悪影響を防ぐ。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0036

生産計画・統制 > 需要予測・生産計画 | 難易度：標準

論点：総合生産計画（aggregate planning）の対象として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「より下位の作業設計である。」

ア：対応する記述：長期の工場立地だけを定める

イ：対応する記述：中期的な需要に対して、総量レベルで生産量、在庫、労働力、外注等の組合せを決める

ウ：対応する記述：個々の部品の発注指図だけを直接確定する

エ：対応する記述：1台の設備の秒単位作業手順だけを定める

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「戦略的能力計画の領域である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「総合生産計画は個別品番の詳細日程より上位で、製品群レベルの需要と能力を調整する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「MRP等の詳細資材計画に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。より下位の作業設計である。

総合解説：提示された評価理由は「1台の設備の秒単位作業手順だけを定める」という記述に対応する。より下位の作業設計である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0037 生産計画・統制 > 需要予測・生産計画 | 難易度：標準

論点：レベル生産戦略と追従（チェイス）戦略の違いとして最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「前者は安定性、後者は在庫抑制の一方で要員・能力変動コストとのトレードオフがある。」

- ア：対応する記述：レベル戦略は生産率・要員を比較的安定させ在庫等で需要差を吸収し、チェイス戦略は需要に合わせ生産率・要員を変動させる
- イ：対応する記述：レベル戦略は毎期需要と完全一致するよう人員を変更する
- ウ：対応する記述：チェイス戦略は需要変化を無視して一定量だけ生産する
- エ：対応する記述：両戦略は在庫・要員への影響が常に同じである

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。前者は安定性、後者は在庫抑制の一方で要員・能力変動コストとのトレードオフがある。
イ：この記述の評価理由は「チェイス戦略に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「レベル戦略に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「調整手段が異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「レベル戦略は生産率・要員を比較的安定させ在庫等で需要差を吸収し、チェイス戦略は需要に合わせ生産率・要員を変動させる」という記述に対応する。前者は安定性、後者は在庫抑制の一方で要員・能力変動コストとのトレードオフがある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0038 生産計画・統制 > 需要予測・生産計画 | 難易度：標準

論点：基準生産計画（MPS）の役割として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「会計処理である。」

- ア：対応する記述：最終品や主要完成品について、いつ何をどれだけ完成させるかを時系列で具体化し、MRPなど下位計画の基礎にする
- イ：対応する記述：財務会計上の損益計算書を作る
- ウ：対応する記述：全設備の故障原因だけを分析する
- エ：対応する記述：企業理念を時系列で定義する

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「MPSは総合計画を個別最終品の時期別数量へ展開する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。会計処理である。
ウ：この記述の評価理由は「設備保全の領域である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「生産計画とは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「財務会計上の損益計算書を作る」という記述に対応する。会計処理である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0039 生産計画・統制 > 需要予測・生産計画 | 難易度：応用

論点：RCCP（粗能力計画）の目的として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「時間研究の領域である。」

- ア：対応する記述：完成品の品質特性だけを管理図で監視する
- イ：対応する記述：需要予測誤差の符号だけを累積する
- ウ：対応する記述：すべての作業者の秒単位標準時間を直接測定する
- エ：対応する記述：MPSで予定した生産量が、主要工程や重要資源の能力から見て概ね実行可能かを早期に検証する

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「品質管理の領域である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「予測管理の指標である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。時間研究の領域である。
エ：この記述の評価理由は「詳細MRPの前後で主要能力との整合を確認し、非現実的なMPSを避ける。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「すべての作業者の秒単位標準時間を直接測定する」という記述に対応する。時間研究の領域である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0040 生産計画・統制 > 需要予測・生産計画 | 難易度：応用

論点：ある企業では需要増加が予想されるが、予測誤差も大きい。生産計画上の対応として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「不確実性が高いほど単一予測への依存を避け、柔軟な能力と定期的再計画を組み合わせることが有効である。」

- ア：対応する記述：外注や残業などの代替手段を禁止して能力を固定する
- イ：対応する記述：最も楽観的な予測値を確定値として全量先行生産する
- ウ：対応する記述：予測誤差が大きいので計画を一切作らない
- エ：対応する記述：予測の点推定だけで固定せず、能力余裕・在庫・外注など複数の調整手段を用意し、ローリングで計画を更新する

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「柔軟性を低下させる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「過剰在庫リスクが高い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「不確実性下でも計画と調整手段は必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。不確実性が高いほど単一予測への依存を避け、柔軟な能力と定期的再計画を組み合わせることが有効である。
総合解説：提示された評価理由は「予測の点推定だけで固定せず、能力余裕・在庫・外注など複数の調整手段を用意し、ローリングで計画を更新する」という記述に対応する。不確実性が高いほど単一予測への依存を避け、柔軟な能力と定期的再計画を組み合わせることが有効である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0041 生産計画・統制 > 進捗・余力・現品管理 | 難易度：基礎

論点：進捗管理の主な目的として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「これは時間研究の一部であり進捗管理ではない。」

- ア：対応する記述：標準時間を決めるだけで実績は確認しない
- イ：対応する記述：製品設計の機能だけを評価する
- ウ：対応する記述：需要予測を一度作れば製造実績は追跡しない
- エ：対応する記述：計画した着手・完成時期や数量と実績を比較し、遅れ・停滞を把握して必要な是正を行う

答え・解説 正答：ア

- ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。これは時間研究の一部であり進捗管理ではない。
- イ：この記述の評価理由は「VE等の領域である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「実行統制が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：この記述の評価理由は「進捗管理は日程計画の実行状況を監視し、納期達成へ向けて例外処理を行う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「標準時間を決めるだけで実績は確認しない」という記述に対応する。これは時間研究の一部であり進捗管理ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0042 生産計画・統制 > 進捗・余力・現品管理 | 難易度：基礎

論点：ディスパッチング（作業指示）の説明として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「ディスパッチングは詳細日程の実行段階で作業順序を決定・指示する。」

- ア：対応する記述：設備の耐用年数だけを計算する
- イ：対応する記述：待ち行列にある複数ジョブについて、どのジョブを次にどの設備で処理するかを現場へ指示する
- ウ：対応する記述：長期の工場立地だけを決定する
- エ：対応する記述：製品価格を設定する

答え・解説 正答：イ

- ア：この記述の評価理由は「保全・会計の領域である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。ディスパッチングは詳細日程の実行段階で作業順序を決定・指示する。
- ウ：この記述の評価理由は「戦略的意思決定である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：この記述の評価理由は「マーケティング・財務の領域である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「待ち行列にある複数ジョブについて、どのジョブを次にどの設備で処理するかを現場へ指示する」という記述に対応する。ディスパッチングは詳細日程の実行段階で作業順序を決定・指示する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0043 生産計画・統制 > 進捗・余力・現品管理 | 難易度：基礎

論点：余力管理における『余力』の意味として最も適切なものはどれか。 学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「能率指標に近い。」

- ア：対応する記述：売上高と変動費の差
- イ：対応する記述：在庫の帳簿数量と実棚数量の差
- ウ：対応する記述：標準時間と実績時間の比率だけ
- エ：対応する記述：ある期間の利用可能能力から割り当て済みの負荷を差し引いた、追加作業を受け入れられる能力の余裕

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「限界利益である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「在庫差異であり余力ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。能率指標に近い。
エ：この記述の評価理由は「余力は負荷と能力の差を把握し、負荷平準化や残業・外注判断に用いる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「標準時間と実績時間の比率だけ」という記述に対応する。能率指標に近い。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0044 生産計画・統制 > 進捗・余力・現品管理 | 難易度：基礎

論点：ある職場の来週の利用可能能力が400時間、既に割り当てられた負荷が460時間である。余力管理上の判断として最も適切なものはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「符号を逆に解釈している。」

- ア：対応する記述：能力と負荷の差は進捗管理に無関係なので何もしない
- イ：対応する記述：460時間を400時間で割った値だけを見て対策は不要とする
- ウ：対応する記述：60時間の能力不足であり、負荷移管、残業、外注、納期調整などの対策を検討する
- エ：対応する記述：60時間の余力があるので追加受注を入れる

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「能力不足は納期遅延要因になる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「比率把握に加えて不足時間への具体策が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「余力 = 400 - 460 = - 60時間で、負荷が能力を上回っている。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。符号を逆に解釈している。
総合解説：提示された評価理由は「60時間の余力があるので追加受注を入れる」という記述に対応する。符号を逆に解釈している。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0045

生産計画・統制 > 進捗・余力・現品管理 | 難易度：標準

論点：投入・産出管理（input-output control）の考え方として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「投入が産出を長期間上回れば仕掛品と待ち時間が増えやすい。」

ア：対応する記述：ワークセンターへの投入量と完成・産出量を継続的に比較し、仕掛品の膨張や能力不整合を抑える

イ：対応する記述：生産現場ではWIP量はリードタイムと無関係である

ウ：対応する記述：投入量が多いほど仕掛品は必ず減る

エ：対応する記述：産出量は監視せず投入量だけを増やす

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。投入が産出を長期間上回れば仕掛品と待ち時間が増えやすい。
イ：この記述の評価理由は「Littleの法則等から関係がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「処理能力を超える投入は仕掛品増加を招く。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「両者のバランスを管理する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「ワークセンターへの投入量と完成・産出量を継続的に比較し、仕掛品の膨張や能力不整合を抑える」という記述に対応する。投入が産出を長期間上回れば仕掛品と待ち時間が増えやすい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0046

生産計画・統制 > 進捗・余力・現品管理 | 難易度：標準

論点：Littleの法則を安定した工程へ適用するとき、WIP、スループット、平均サイクルタイムの関係として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「次元が合わない。」

ア：対応する記述：スループットと平均サイクルタイムを乗じる関係： $WIP = \text{スループット} \times \text{平均サイクルタイム}$

イ：対応する記述：スループットを平均サイクルタイムで除す関係： $WIP = \text{スループット} \div \text{平均サイクルタイム}$

ウ：対応する記述：WIPとスループットを乗じて平均サイクルタイムを求める関係： $\text{平均サイクルタイム} = WIP \times \text{スループット}$

エ：対応する記述： $WIP \cdot \text{スループット} \cdot \text{平均サイクルタイム}$ の3者に一般的な関係はない

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「平均的にシステム内に存在する仕事量は処理率と滞在時間の積で表せる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。次元が合わない。

ウ：この記述の評価理由は「正しくは $WIP \div \text{スループット}$ である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「安定条件下でLittleの法則が成立する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「スループットを平均サイクルタイムで除す関係： $WIP = \text{スループット} \div \text{平均サイクルタイム}$ 」という記述に対応する。次元が合わない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0047 生産計画・統制 > 進捗・余力・現品管理 | 難易度：標準

論点：仕掛品（WIP）が過剰になる典型的な影響として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「WIPは変動を吸収する一方、過剰になると問題を隠しリードタイムを延ばす。」

- ア：対応する記述：WIPを増やせば設備能力そのものが自動的に増える
- イ：対応する記述：WIPは品質問題の発見速度に一切影響しない
- ウ：対応する記述：待ち時間・運搬・保管・問題発見の遅れが増え、製造リードタイムが長くなりやすい
- エ：対応する記述：WIPが増えるほど製造リードタイムは必ず短くなる

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「物理的能力は増えない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「不良が後工程で発見されるまでの時間が延びることがある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。WIPは変動を吸収する一方、過剰になると問題を隠しリードタイムを延ばす。
エ：この記述の評価理由は「一般には逆方向の影響が出やすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「待ち時間・運搬・保管・問題発見の遅れが増え、製造リードタイムが長くなりやすい」という記述に対応する。WIPは変動を吸収する一方、過剰になると問題を隠しリードタイムを延ばす。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0048 生産計画・統制 > 進捗・余力・現品管理 | 難易度：標準

論点：現品管理の目的として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「仕掛品も重要な現品管理対象である。」

- ア：対応する記述：識別表示をなくして品目を混在させる
- イ：対応する記述：材料・仕掛品・完成品について、品目・数量・所在・状態を正確に把握し、取り換えや欠品・滞留を防ぐ
- ウ：対応する記述：現物の所在は把握せず帳簿数量だけを管理する
- エ：対応する記述：仕掛品は資産ではないので管理対象外とする

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「取り違いリスクを高める。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「現物と情報を一致させ、必要な品を必要な時に利用できる状態を保つ。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「所在・状態の把握も重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。仕掛品も重要な現品管理対象である。
総合解説：提示された評価理由は「仕掛品は資産ではないので管理対象外とする」という記述に対応する。仕掛品も重要な現品管理対象である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0049 生産計画・統制 > 進捗・余力・現品管理 | 難易度：標準

論点：ロット追跡（traceability）が特に重要な理由として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「追跡可能性と反対である。」

- ア：対応する記述：全製品の識別をなくすことで管理工数を削減する
- イ：対応する記述：不具合発生時に使用材料・製造条件・出荷先を遡及し、影響範囲を限定して原因究明や回収を行える
- ウ：対応する記述：不具合があっても全製品を必ず同時廃棄するため
- エ：対応する記述：製造履歴は品質と無関係なので保存しない

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。追跡可能性と反対である。
イ：この記述の評価理由は「ロット番号等で履歴を結び付けることで品質保証とリスク対応を高める。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「追跡できれば対象範囲を絞れる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「原因解析・回収判断に重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「全製品の識別をなくすことで管理工数を削減する」という記述に対応する。追跡可能性と反対である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0050 生産計画・統制 > 進捗・余力・現品管理 | 難易度：標準

論点：納期遅延が発生しそうなジョブに対して行う『expediting（督促・進捗促進）』として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「予定から遅れている例外案件に対し、必要資源や順序を調整して回復を図る。」

- ア：対応する記述：すべてのジョブを同じ優先度に固定して例外処理しない
- イ：対応する記述：該当ジョブの優先度を上げ、材料・設備・人員の障害除去や工程間調整を行って完成を促進する
- ウ：対応する記述：原因に関係なく製品仕様を変更する
- エ：対応する記述：遅延情報を隠して予定表だけ変更しない

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「緊急度に応じた調整が必要な場合がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。予定から遅れている例外案件に対し、必要資源や順序を調整して回復を図る。
ウ：この記述の評価理由は「進捗促進の一般的手段ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「問題の早期是正にならない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「該当ジョブの優先度を上げ、材料・設備・人員の障害除去や工程間調整を行って完成を促進する」という記述に対応する。予定から遅れている例外案件に対し、必要資源や順序を調整して回復を図る。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0051 生産計画・統制 > 進捗・余力・現品管理 | 難易度：応用

論点：納期順（EDD: Earliest Due Date）ルールの特徴として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「これはSPTルールである。」

- ア：対応する記述：到着順に必ず処理する
- イ：対応する記述：納期が最も遅いジョブから処理する
- ウ：対応する記述：処理時間が最も短いジョブから並べる
- エ：対応する記述：納期が最も早いジョブから処理することで、最大納期遅れを抑える目的に適した単純優先規則である

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「これはFCFSである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「EDDとは逆である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これはSPTルールである。
 - エ：この記述の評価理由は「EDDは各ジョブの処理時間ではなく納期の早さを基準に順序付ける。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- 総合解説：提示された評価理由は「処理時間が最も短いジョブから並べる」という記述に対応する。これはSPTルールである。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0052 生産計画・統制 > 進捗・余力・現品管理 | 難易度：応用

論点：ある工程で納期遅延が増えているが、実績を見ると設備稼働率は高く、仕掛品も増加している。最初に疑うべき運営上の問題として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「非制約工程を最大稼働させてもシステムのスループットは増えず、WIPとリードタイムだけ増えることがある。」

- ア：対応する記述：進捗実績を記録しないことが最善である
- イ：対応する記述：仕掛品が増えるほど納期は必ず短くなるので問題はない
- ウ：対応する記述：全工程の稼働率を100％へ近づければ必ず解決する
- エ：対応する記述：局所的な高稼働率を優先してボトルネック能力を超える仕事を投入し、待ち行列とWIPを膨張させている可能性

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「原因把握ができなくなる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「待ち時間増加で遅延しやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：この記述の評価理由は「制約を無視した局所最適は逆効果になり得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。非制約工程を最大稼働させてもシステムのスループットは増えず、WIPとリードタイムだけ増えることがある。
- 総合解説：提示された評価理由は「局所的な高稼働率を優先してボトルネック能力を超える仕事を投入し、待ち行列とWIPを膨張させている可能性」という記述に対応する。非制約工程を最大稼働させてもシステムのスループットは増えず、WIPとリードタイムだけ増えることがある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0053 生産計画・統制 > MRP・JIT・TOC | 難易度：基礎

論点：MRP（資材所要量計画）の主要入力情報の組合せとして最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「人的資源管理の情報である。」

- ア：対応する記述：組織図、職務記述書、評価表
- イ：対応する記述：損益計算書、貸借対照表、資金繰り表
- ウ：対応する記述：管理図、ヒストグラム、散布図
- エ：対応する記述：基準生産計画（MPS）、部品表（BOM）、在庫記録

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。人的資源管理の情報である。
イ：この記述の評価理由は「財務情報でありMRPの主要入力ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「品質管理ツールである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「MRPは最終品の予定をBOMで展開し、在庫・予定入荷を差し引いて部品の正味所要量と時期を計算する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「組織図、職務記述書、評価表」という記述に対応する。人的資源管理の情報である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0054 生産計画・統制 > MRP・JIT・TOC | 難易度：基礎

論点：MRPが特に適する需要の性質として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「最終品の独立需要は予測等で扱い、MRPはそこから従属需要を展開する。」

- ア：対応する記述：需要時期を一切考慮しない在庫だけ
- イ：対応する記述：市場から直接生じる最終製品の独立需要だけ
- ウ：対応する記述：完成品の需要に従属して部品需要が決まる従属需要
- エ：対応する記述：需要と製品構成が全く無関係な品目だけ

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「MRPは時間段階化が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。最終品の独立需要は予測等で扱い、MRPはそこから従属需要を展開する。
ウ：この記述の評価理由は「部品の必要量と時期は親品目の生産計画とBOMから論理的に展開できる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「BOM関係を利用できない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「市場から直接生じる最終製品の独立需要だけ」という記述に対応する。最終品の独立需要は予測等で扱い、MRPはそこから従属需要を展開する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0055 生産計画・統制 > MRP・JIT・TOC | 難易度：標準

論点：ある部品Pの総所要量が100個、手持在庫が30個、安全在庫を10個残す必要があり、予定入荷が20個ある。単純化して同一期間内で考える場合の正味所要量として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「必要量を満たした後に安全在庫10を残すため、正味所要量は60個となる。」

- ア：対応する記述：80個である。予定入荷20を在庫として差し引いていない
- イ：対応する記述：50個である。安全在庫を考慮せず100 - 30 - 20としている
- ウ：対応する記述：60個である。100 + 安全在庫10 - 手持30 - 予定入荷20と計算する
- エ：対応する記述：110個である。手持在庫と予定入荷を全く差し引いていない

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「予定入荷は利用可能量に加える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「安全在庫10を確保できない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。必要量を満たした後に安全在庫10を残すため、正味所要量は60個となる。
エ：この記述の評価理由は「正味化の考え方に反する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「60個である。100 + 安全在庫10 - 手持30 - 予定入荷20と計算する」という記述に対応する。必要量を満たした後に安全在庫10を残すため、正味所要量は60個となる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0056 生産計画・統制 > MRP・JIT・TOC | 難易度：標準

論点：MRPでリードタイム・オフセットを行う意味として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「納期遅延を招く。」

- ア：対応する記述：リードタイムを考えず全品を同日に発注する
- イ：対応する記述：部品表の数量をランダムに変更する
- ウ：対応する記述：必要な入庫時点から調達・製造リードタイム分だけ遡って発注・着手時点を決める
- エ：対応する記述：必要時点より後に発注することで在庫を増やす

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「時期計画ができない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「リードタイムとは無関係である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「必要日に間に合うよう時間段階化して計画オーダーを前倒しする。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。納期遅延を招く。
総合解説：提示された評価理由は「必要時点より後に発注することで在庫を増やす」という記述に対応する。納期遅延を招く。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0057 生産計画・統制 > MRP・JIT・TOC | 難易度：標準

論点：JITにおける『プル方式』の説明として最も適切なものはどれか。 次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「必要なものを必要な時に必要なだけ流すため、後工程起点で補充する。」

- ア：対応する記述：後工程の実際の消費・引取りを合図に、前工程が必要量を補充する
- イ：対応する記述：仕掛品を増やすこと自体を目標とする
- ウ：対応する記述：前工程が能力いっぱいを作り、後工程の需要に関係なく押し込む
- エ：対応する記述：需要情報を工程間で共有しない

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。必要なものを必要な時に必要なだけ流すため、後工程起点で補充する。
イ：この記述の評価理由は「JITは滞留とムダの削減を狙う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「プッシュ方式で過剰在庫を生みやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「引取り情報が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「後工程の実際の消費・引取りを合図に、前工程が必要量を補充する」という記述に対応する。必要なものを必要な時に必要なだけ流すため、後工程起点で補充する。 この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0058 生産計画・統制 > MRP・JIT・TOC | 難易度：標準

論点：トヨタ生産方式の二本柱として最も適切な組合せはどれか。 学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「局所的な最大稼働や大ロットはムダを生む場合がある。」

- ア：対応する記述：大量在庫と全数検査
- イ：対応する記述：機械稼働率最大化と大ロット化
- ウ：対応する記述：ジャスト・イン・タイムと自動化
- エ：対応する記述：需要予測と財務会計

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「TPSの二本柱ではなく、在庫と後工程検査への依存を抑える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。局所的な最大稼働や大ロットはムダを生む場合がある。
ウ：この記述の評価理由は「トヨタは、必要なものを必要な時に必要なだけ流すJITと、異常で止まる・止める自動化を二本柱としている。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「TPSの二本柱ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「機械稼働率最大化と大ロット化」という記述に対応する。局所的な最大稼働や大ロットはムダを生む場合がある。 この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0059

生産計画・統制 > MRP・JIT・TOC | 難易度：応用

論点：TOC（制約理論）でボトルネックを改善する際の考え方として最も適切なものはどれか。
次の診断理由に対応する判断はどれか。「制約で処理できないWIPが増えるだけの可能性がある。」

ア：対応する記述：制約工程への良品投入を減らし不良を優先処理する

イ：対応する記述：制約工程の能力を浪費しないよう稼働を保護し、非制約工程は制約のペースに従属させる

ウ：対応する記述：非制約工程を100%稼働させて仕掛品を増やす

エ：対応する記述：ボトルネックの停止時間を増やす

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「制約時間を価値ある処理へ使う必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「システム全体のスループットは制約に強く支配されるため、制約活用と従属が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。制約で処理できないWIPが増えるだけの可能性がある。

エ：この記述の評価理由は「スループットを低下させる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「非制約工程を100%稼働させて仕掛品を増やす」という記述に対応する。制約で処理できないWIPが増えるだけの可能性がある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0060

生産計画・統制 > MRP・JIT・TOC | 難易度：応用

論点：Drum-Buffer-Rope（DBR）の考え方として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「制約を基準に全体の流れを同期し、過剰WIPを抑えながら制約停止を防ぐ。」

ア：対応する記述：バッファを工場全体へ無制限に増やす

イ：対応する記述：ドラムは最も余力の大きい工程を意味する

ウ：対応する記述：各工程が独立に最大速度で生産する

エ：対応する記述：制約工程を生産ペースのドラムとし、制約を守る時間バッファを置き、投入をそのペースに同期させる

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「必要箇所を保護するための管理であり無制限在庫ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「通常はシステム制約を基準にする。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「同期が崩れWIPが増えやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。制約を基準に全体の流れを同期し、過剰WIPを抑えながら制約停止を防ぐ。

総合解説：提示された評価理由は「制約工程を生産ペースのドラムとし、制約を守る時間バッファを置き、投入をそのペースに同期させる」という記述に対応する。制約を基準に全体の流れを同期し、過剰WIPを抑えながら制約停止を防ぐ。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0061 IE・品質・保全 > 作業研究・時間研究 | 難易度：基礎

論点：作業研究（work study）の基本的な構成として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「作業研究の構成ではない。」

- ア：対応する記述：財務分析と市場調査だけで構成する
- イ：対応する記述：方法研究と作業測定を組み合わせ、より良い作業方法と適正な標準時間を設定する
- ウ：対応する記述：設備投資額と株価だけを比較する
- エ：対応する記述：需要予測だけを実施し作業方法は見ない

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。作業研究の構成ではない。
イ：この記述の評価理由は「IEでは作業方法を改善する方法研究と、作業時間を測定・設定する作業測定が補完関係にある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「企業財務の領域である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「作業研究の目的と異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「財務分析と市場調査だけで構成する」という記述に対応する。作業研究の構成ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0062 IE・品質・保全 > 作業研究・時間研究 | 難易度：基礎

論点：ECRSの原則の順序として一般に最初に検討すべきものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「不要な作業を消せば最も大きな改善効果が得られるため、排除を優先して考える。」

- ア：対応する記述：Rearrange（入替え）だけを行い目的を確認しない
- イ：対応する記述：Eliminate（排除）：その作業自体をなくせないか検討する
- ウ：対応する記述：Combine（結合）を必ず最後に行う
- エ：対応する記述：Simplify（簡素化）だけを最初に行い不要作業も残す

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「まず作業の必要性を問う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。不要な作業を消せば最も大きな改善効果が得られるため、排除を優先して考える。
ウ：この記述の評価理由は「ECRSは排除、結合、入替え、簡素化の順で検討するのが基本である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「簡素化より前に排除可能性を検討する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「Eliminate（排除）：その作業自体をなくせないか検討する」という記述に対応する。不要な作業を消せば最も大きな改善効果が得られるため、排除を優先して考える。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0063

IE・品質・保全 > 作業研究・時間研究 | 難易度：基礎

論点：工程分析で『運搬』を識別する目的として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「貯蔵と運搬は異なる。」

- ア：対応する記述：加工による形状変化だけを記録する
- イ：対応する記述：材料や人の位置移動を把握し、不要な移動距離・回数を削減する改善につなげる
- ウ：対応する記述：保管状態だけを示す
- エ：対応する記述：品質判定だけを示す

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「これは作業・加工の記号に相当する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「運搬は価値を直接付加しないことが多く、レイアウトや方法改善の対象になる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。貯蔵と運搬は異なる。
エ：この記述の評価理由は「検査の概念である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「保管状態だけを示す」という記述に対応する。貯蔵と運搬は異なる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0064

IE・品質・保全 > 作業研究・時間研究 | 難易度：標準

論点：動作経済の原則に沿った改善として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「移動を増やす。」

- ア：対応する記述：工具や材料を使用頻度・動作順に応じて作業者の正常作業域へ配置し、手の移動距離を短くする
- イ：対応する記述：左右の手の仕事を可能な限り同時に遊ばせる
- ウ：対応する記述：毎回工具の置き場所を変える
- エ：対応する記述：よく使う工具を作業者から最も遠い位置に置く

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「不要な到達・探索・持替えを減らし、疲労と作業時間を低減する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「両手の有効活用と反対である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「探索時間とばらつきを増やす。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。移動を増やす。
総合解説：提示された評価理由は「よく使う工具を作業者から最も遠い位置に置く」という記述に対応する。移動を増やす。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0065 IE・品質・保全 > 作業研究・時間研究 | 難易度：標準

論点：ストップウォッチ時間研究で観測時間を標準的な作業速度へ補正するために用いるものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「観測者が標準速度に対する実際の作業速度を評価し、正味時間へ補正する。」

- ア：対応する記述：レーティング係数（performance rating）
- イ：対応する記述：工程能力指数
- ウ：対応する記述：資本コスト
- エ：対応する記述：安全在庫率

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。観測者が標準速度に対する実際の作業速度を評価し、正味時間へ補正する。
イ：この記述の評価理由は「品質管理の指標である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「財務の指標である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「在庫管理の指標である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「レーティング係数（performance rating）」という記述に対応する。観測者が標準速度に対する実際の作業速度を評価し、正味時間へ補正する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0066 IE・品質・保全 > 作業研究・時間研究 | 難易度：標準

論点：観測時間が5.0分、レーティング係数が110%、余裕率を正味時間に対して15%加える方式とする。標準時間として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「作業速度補正が抜けている。」

- ア：対応する記述：7.15分である。レーティング110%と余裕15%を単純に25%ではなく43%として扱っている
- イ：対応する記述：5.75分である。観測時間5.0分に余裕15%だけを加えレーティングを無視している
- ウ：対応する記述：約6.33分である。正味時間 $5.0 \times 1.10 = 5.5$ 分に15%の余裕を加える
- エ：対応する記述：5.50分である。レーティング補正だけで余裕を加えていない

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「計算根拠が不適切である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。作業速度補正が抜けている。
ウ：この記述の評価理由は「 $5.5 \times 1.15 = 6.325$ 分となる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「標準時間には所定の余裕を反映する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「5.75分である。観測時間5.0分に余裕15%だけを加えレーティングを無視している」という記述に対応する。作業速度補正が抜けている。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0067

IE・品質・保全 > 作業研究・時間研究 | 難易度：標準

論点：時間研究で余裕（allowance）を設定する理由として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「標準時間は持続可能な作業を前提とし、不可避な余裕を考慮する。」

ア：対応する記述：すべての設備故障時間を標準作業時間へ無条件に転嫁する

イ：対応する記述：作業者の怠慢を無制限に認めるため

ウ：対応する記述：疲労、用達、避け難い遅れなど、通常作業に必要な非作業時間を標準時間へ合理的に織り込む

エ：対応する記述：観測誤差を意図的に大きくする

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「異常故障は別途改善・保全対象となる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「合理的に必要な余裕を設定する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。標準時間は持続可能な作業を前提とし、不可避な余裕を考慮する。

エ：この記述の評価理由は「測定精度向上と反対である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「疲労、用達、避け難い遅れなど、通常作業に必要な非作業時間を標準時間へ合理的に織り込む」という記述に対応する。標準時間は持続可能な作業を前提とし、不可避な余裕を考慮する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0068

IE・品質・保全 > 作業研究・時間研究 | 難易度：標準

論点：ワークサンプリングが適しやすい用途として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「需要予測手法ではない。」

ア：対応する記述：1回の観測だけで秒単位の要素作業時間を厳密に決定する

イ：対応する記述：製品設計の機能分析だけを行う

ウ：対応する記述：長時間にわたりランダム時点で状態を観測し、稼働・非稼働などの時間割合を統計的に推定する

エ：対応する記述：需要の季節変動だけを予測する

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「要素時間の詳細測定には時間研究等が適する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「VEの領域である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「連続観測せず多数の瞬間観測から活動割合を推定する手法である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。需要予測手法ではない。

総合解説：提示された評価理由は「需要の季節変動だけを予測する」という記述に対応する。需要予測手法ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0069 IE・品質・保全 > 作業研究・時間研究 | 難易度：応用

論点：PTS（Predetermined Motion Time System）の特徴として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「作業時間設定とは無関係である。」

- ア：対応する記述：必ず完成後の製品を破壊検査して時間を決める
- イ：対応する記述：需要予測の指数平滑定数を決める手法である
- ウ：対応する記述：基本動作にあらかじめ定められた標準時間値を適用し、実作業の長時間観測をせずに方法段階から時間を見積もれる
- エ：対応する記述：作業者ごとの給与額から標準時間を逆算する

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。作業時間設定とは無関係である。
イ：この記述の評価理由は「用途が異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「MTM等のPTSは動作を要素化し、既定時間値から標準時間設計に活用する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「PTSの方法ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「必ず完成後の製品を破壊検査して時間を決める」という記述に対応する。作業時間設定とは無関係である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0070 IE・品質・保全 > 作業研究・時間研究 | 難易度：応用

論点：作業改善で『作業者が部品箱へ手を伸ばす→部品を探す→向きを直す→組み付ける』動作が繰り返されている。最も効果的な改善案はどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「動作経済と方法研究の観点から、探す・選ぶ・向きを直す非付加価値動作を設計で除去する。」

- ア：対応する記述：部品箱をさらに遠くへ置いて歩行を増やす
- イ：対応する記述：部品を一定方向で自動整列・定位置供給し、探索・選別・持替え動作を削減する
- ウ：対応する記述：部品を複数種類混在させ識別を難しくする
- エ：対応する記述：作業方法は変えず、作業者に速度だけを上げるよう求める

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「移動ロスを増やす。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。動作経済と方法研究の観点から、探す・選ぶ・向きを直す非付加価値動作を設計で除去する。
ウ：この記述の評価理由は「探索・誤組付けを増やす。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「根本的な方法改善にならず疲労・品質問題を招く可能性がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「部品を一定方向で自動整列・定位置供給し、探索・選別・持替え動作を削減する」という記述に対応する。動作経済と方法研究の観点から、探す・選ぶ・向きを直す非付加価値動作を設計で除去する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0071

IE・品質・保全 > 品質管理・QC手法 | 難易度：基礎

論点：品質管理で『工程で品質を作り込む』考え方として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「問題発見が遅れ手直し・廃棄が増える。」

ア：対応する記述：検査結果を生産工程へフィードバックしない

イ：対応する記述：不良を最終検査で選別するだけでなく、工程条件を管理し異常を早期検出して不良発生を未然に防ぐ

ウ：対応する記述：不良が出ても全数完成後にだけ確認する

エ：対応する記述：工程条件のばらつきを意図的に増やす

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「工程改善に活用できない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「後工程検査への依存を減らし、原因工程で品質を保証することが重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。問題発見が遅れ手直し・廃棄が増える。

エ：この記述の評価理由は「品質安定と反対である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「不良が出ても全数完成後にだけ確認する」という記述に対応する。問題発見が遅れ手直し・廃棄が増える。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0072

IE・品質・保全 > 品質管理・QC手法 | 難易度：基礎

論点：PDCAの『Check』に該当する活動として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「Checkは実行結果を測定・評価して差異を把握する段階である。」

ア：対応する記述：計画に基づき対策を実行する

イ：対応する記述：評価結果を踏まえて標準化や再対策を行う

ウ：対応する記述：目標と実施計画を立てる

エ：対応する記述：実施結果を目標・基準と比較し、効果や問題点を評価する

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「Doである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「Actである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「Planである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。Checkは実行結果を測定・評価して差異を把握する段階である。

総合解説：提示された評価理由は「実施結果を目標・基準と比較し、効果や問題点を評価する」という記述に対応する。Checkは実行結果を測定・評価して差異を把握する段階である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0073

IE・品質・保全 > 品質管理・QC手法 | 難易度：基礎

論点：パレート図を使う目的として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「ヒストグラムの用途である。」

ア：対応する記述：度数分布の形だけを確認する

イ：対応する記述：不良件数や損失を原因別に大きい順に並べ、重点的に取り組む項目を明確にする

ウ：対応する記述：2変数の相関だけを確認する

エ：対応する記述：時間順に工程の安定性を監視する

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。ヒストグラムの用途である。

イ：この記述の評価理由は「少数の主要項目が大きな影響を持つかを可視化し、改善優先順位を付ける。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「散布図の用途である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「管理図の用途である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「度数分布の形だけを確認する」という記述に対応する。ヒストグラムの用途である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0074

IE・品質・保全 > 品質管理・QC手法 | 難易度：基礎

論点：特性要因図（魚の骨図）の利用目的として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「管理図である。」

ア：対応する記述：データの頻度分布を階級別に表示する

イ：対応する記述：不良率の時間推移に管理限界を引く

ウ：対応する記述：原因別件数を大きい順に並べる

エ：対応する記述：問題となる品質特性に影響し得る原因を、人・機械・材料・方法などの観点で体系的に洗い出す

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「ヒストグラムである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。管理図である。

ウ：この記述の評価理由は「パレート図である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「原因候補を構造化して議論し、原因解析の抜けを減らす。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「不良率の時間推移に管理限界を引く」という記述に対応する。管理図である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0075

IE・品質・保全 > 品質管理・QC手法 | 難易度：標準

論点：ヒストグラムから読み取りやすい情報として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「区間ごとの度数分布を可視化し工程データの分布状態を把握できる。」

ア：対応する記述：各不良原因の因果関係を直接証明する

イ：対応する記述：2変数間の相関係数を自動的に求める

ウ：対応する記述：量的データの中心、ばらつき、分布形状、偏りや多峰性など

エ：対応する記述：時間順の異常発生時点を必ず特定する

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「分布図だけで因果は証明できない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「散布図・相関分析の領域である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。区間ごとの度数分布を可視化し工程データの分布状態を把握できる。

エ：この記述の評価理由は「時間順序情報を失うことがある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「量的データの中心、ばらつき、分布形状、偏りや多峰性など」という記述に対応する。区間ごとの度数分布を可視化し工程データの分布状態を把握できる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0076

IE・品質・保全 > 品質管理・QC手法 | 難易度：標準

論点：管理図で管理限界線の外側に点が現れた場合の基本的な考え方として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「規格適合と統計的管理状態は別概念である。」

ア：対応する記述：特殊原因による工程変化の可能性を疑い、原因を調査して工程状態を確認する

イ：対応する記述：管理限界外の点は必ず測定ミスなので削除する

ウ：対応する記述：管理限界は顧客仕様の上下限と常に同じである

エ：対応する記述：製品規格内なら管理限界外でも工程は必ず安定している

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「管理限界は規格限界とは異なり、工程の統計的安定性を監視するために使う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「実際の特種原因か測定問題かを調査する必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「統計データから設定する管理限界と規格限界は異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。規格適合と統計的管理状態は別概念である。

総合解説：提示された評価理由は「製品規格内なら管理限界外でも工程は必ず安定している」という記述に対応する。規格適合と統計的管理状態は別概念である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0077 IE・品質・保全 > 品質管理・QC手法 | 難易度：標準

論点：散布図を用いる際の判断として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「第三の要因や逆因果の可能性があるため、相関と因果を区別する。」

- ア：対応する記述：2変数の関係の方向や強さを視覚的に把握できるが、相関があっても因果関係が証明されたとは限らない
- イ：対応する記述：散布図は1変数の度数分布だけを見る
- ウ：対応する記述：時間順の工程異常を管理限界で判定する
- エ：対応する記述：点が右上がりなら一方が他方を必ず原因としている

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。第三の要因や逆因果の可能性があるため、相関と因果を区別する。
イ：この記述の評価理由は「それはヒストグラムの用途である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「管理図の用途である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「相関だけでは因果は確定しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「2変数の関係の方向や強さを視覚的に把握できるが、相関があっても因果関係が証明されたとは限らない」という記述に対応する。第三の要因や逆因果の可能性があるため、相関と因果を区別する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0078 IE・品質・保全 > 品質管理・QC手法 | 難易度：標準

論点：チェックシートの役割として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「事実データの収集を重視する。」

- ア：対応する記述：工程能力指数を自動計算することだけを目的とする
- イ：対応する記述：測定せず印象だけを記録する
- ウ：対応する記述：原因と結果の因果構造を自動的に証明する
- エ：対応する記述：現場で必要データを漏れなく一定形式で収集・分類しやすくする

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「より広いデータ収集用途がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。事実データの収集を重視する。
ウ：この記述の評価理由は「データ収集の道具であり因果を保証しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「記録欄や分類項目を事前設計し、事実ベースの分析に使えるデータを集める。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「測定せず印象だけを記録する」という記述に対応する。事実データの収集を重視する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0079

IE・品質・保全 > 品質管理・QC手法 | 難易度：標準

論点：層別を行う目的として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「層別と反対である。」

- ア：対応する記述：設備、材料ロット、作業者、時間帯などの条件別にデータを分け、全体集計では隠れる差や原因候補を明らかにする
- イ：対応する記述：データ数を意図的に減らして検証を避ける
- ウ：対応する記述：すべてのデータを条件に関係なく一つにまとめる
- エ：対応する記述：管理限界を顧客規格へ置き換える

答え・解説

正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「異なる母集団を混ぜたままではばらつきの原因を見誤ることがある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「原因探索の精度を下げる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。層別と反対である。
- エ：この記述の評価理由は「層別の目的ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- 総合解説：提示された評価理由は「すべてのデータを条件に関係なく一つにまとめる」という記述に対応する。層別と反対である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0080

IE・品質・保全 > 品質管理・QC手法 | 難易度：標準

論点：工程能力指数Cpの解釈として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「一般に $Cp=(USL-LSL)/(6\sigma)$ で、中心ずれはCpkで反映される。」

- ア：対応する記述：工程平均の中心ずれだけを測る指標である
- イ：対応する記述：規格幅と工程ばらつきが無関係でも同じ値になる
- ウ：対応する記述：Cpが高ければ工程が統計的管理状態でなくても必ず良品率が保証される
- エ：対応する記述：工程平均の偏りをいったん考えず、規格幅が工程の自然なばらつき幅に対してどれだけ余裕を持つかを表す

答え・解説

正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「Cpは中心ずれを直接反映しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：この記述の評価理由は「両者の比で決まる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「能力評価の前提として工程安定性の確認が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。一般に $Cp=(USL-LSL)/(6\sigma)$ で、中心ずれはCpkで反映される。
- 総合解説：提示された評価理由は「工程平均の偏りをいったん考えず、規格幅が工程の自然なばらつき幅に対してどれだけ余裕を持つかを表す」という記述に対応する。一般に $Cp=(USL-LSL)/(6\sigma)$ で、中心ずれはCpkで反映される。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0081 IE・品質・保全 > 品質管理・QC手法 | 難易度：応用

論点：抜取検査の特徴として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「確率的リスクが残る。」

- ア：対応する記述：抜取数が1個でもロット品質を100%保証できる
- イ：対応する記述：工程改善の必要を完全に代替する
- ウ：対応する記述：ロットから一部を抽出して判定するため検査コストを抑えられる一方、生産者危険・消費者危険など誤判定リスクが残る
- エ：対応する記述：破壊検査には絶対に使えない

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。確率的リスクが残る。
イ：この記述の評価理由は「検査は不良発生原因の除去とは別である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「全数検査ではないため統計的な判定リスクを伴う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「破壊検査では全数が不可能なため抜取が有用な場合がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「抜取数が1個でもロット品質を100%保証できる」という記述に対応する。確率的リスクが残る。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0082 IE・品質・保全 > 品質管理・QC手法 | 難易度：応用

論点：QCストーリーに沿った問題解決で、原因解析の前に現状把握を行う意義として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「現状を定量化してから原因候補を検証することで、対策先行の誤りを避ける。」

- ア：対応する記述：最初に思いついた対策を実施し、効果確認は行わない
- イ：対応する記述：問題の発生場所・時期・程度をデータで具体化し、思い込みではなく重点的に解析すべき現象を絞る
- ウ：対応する記述：目標を定めず原因だけを列挙する
- エ：対応する記述：現状データを集めると時間がかかるため全て省略する

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「QCストーリーの段階的問題解決と反する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。現状を定量化してから原因候補を検証することで、対策先行の誤りを避ける。
ウ：この記述の評価理由は「目標設定や効果確認も重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「事実に基づく品質管理と反する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「問題の発生場所・時期・程度をデータで具体化し、思い込みではなく重点的に解析すべき現象を絞る」という記述に対応する。現状を定量化してから原因候補を検証することで、対策先行の誤りを避ける。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0083

IE・品質・保全 > 設備保全・TPM・5S・改善 | 難易度：基礎

論点：事後保全と予防保全の違いとして最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「介入時点が異なる。」

ア：対応する記述：事後保全は故障発生後に修復し、予防保全は故障前に点検・交換などを計画的に行って故障を未然に防ぐ

イ：対応する記述：予防保全は故障が起きるまで一切点検しない

ウ：対応する記述：両者は故障時点との関係が全く同じである

エ：対応する記述：事後保全は故障前に部品を交換する

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「設備重要度や故障影響に応じて保全方式を選択する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「事後保全に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。介入時点が異なる。

エ：この記述の評価理由は「これは予防保全に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「両者は故障時点との関係が全く同じである」という記述に対応する。介入時点が異なる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0084

IE・品質・保全 > 設備保全・TPM・5S・改善 | 難易度：基礎

論点：状態基準保全（CBM）の考え方として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「事後保全である。」

ア：対応する記述：需要予測だけで交換時期を決める

イ：対応する記述：振動・温度・摩耗など設備状態を監視し、劣化兆候に基づいて保全時期を判断する

ウ：対応する記述：必ず毎日全主要部品を交換する

エ：対応する記述：設備状態を測定せず、故障した時だけ対応する

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「設備劣化状態を使う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「一定周期だけでなく状態情報を使い、必要な時期に保全する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「状態に応じた合理的保全ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。事後保全である。

総合解説：提示された評価理由は「設備状態を測定せず、故障した時だけ対応する」という記述に対応する。事後保全である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0085 IE・品質・保全 > 設備保全・TPM・5S・改善 | 難易度：標準

論点：MTBFとMTTRから設備の保全性を考える場合、改善方向として最も適切なものはどれか。
答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「MTBFは平均故障間隔、MTTRは平均修復時間であり、両面改善が設備可用性向上に寄与する。」

- ア：対応する記述：MTBFを長くし、MTTRを短くすることで、故障頻度を下げ復旧を速め可用性を高める
- イ：対応する記述：MTBFを短くしMTTRを長くするほど可用性が高まる
- ウ：対応する記述：MTBFとMTTRIは設備停止と無関係である
- エ：対応する記述：MTTRは故障までの平均稼働時間を示す

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。MTBFは平均故障間隔、MTTRは平均修復時間であり、両面改善が設備可用性向上に寄与する。
イ：この記述の評価理由は「故障が増え復旧も遅くなる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「信頼性・保全性の代表指標である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「それはMTBFの説明である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「MTBFを長くし、MTTRを短くすることで、故障頻度を下げ復旧を速め可用性を高める」という記述に対応する。MTBFは平均故障間隔、MTTRは平均修復時間であり、両面改善が設備可用性向上に寄与する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0086 IE・品質・保全 > 設備保全・TPM・5S・改善 | 難易度：標準

論点：TPMの基本的な特徴として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「全員参加の考え方と反する。」

- ア：対応する記述：故障後の修理時間を長くすることを目的とする
- イ：対応する記述：保全部門だけが故障修理を担当し、製造部門は設備に関与しない
- ウ：対応する記述：設備効率ではなく在庫を増やすことだけを目指す
- エ：対応する記述：生産システムのライフサイクルを通じて故障・不良・災害などのロスゼロを目指し、全部門・全員参加で設備と仕事の体質改善を進める

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「ロス低減と反対である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。全員参加の考え方と反する。
ウ：この記述の評価理由は「TPMの目的ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「JIPMはTPMを全員参加の生産保全として、あらゆるロスの未然防止を目指す仕組みと説明している。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「保全部門だけが故障修理を担当し、製造部門は設備に関与しない」という記述に対応する。全員参加の考え方と反する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0087 IE・品質・保全 > 設備保全・TPM・5S・改善 | 難易度：標準

論点：TPMにおける自主保全の考え方として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「保全専門員だけでなく現場オペレーターが日常保全と異常の早期発見に関与する。」

- ア：対応する記述：オペレーターは設備異常を見つけても保全部門へ知らせない
- イ：対応する記述：清掃は美観だけの活動で設備異常発見には関係しない
- ウ：対応する記述：設備を日常使用するオペレーターも清掃・給油・点検・異常発見など基本的保全活動に参加し、設備を自分たちで守る力を高める
- エ：対応する記述：自主保全では専門保全員が不要になる

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「早期発見・連携に反する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「清掃を点検として捉えることが重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。保全専門員だけでなく現場オペレーターが日常保全と異常の早期発見に関与する。
エ：この記述の評価理由は「高度修理・計画保全など専門保全の役割は残る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「設備を日常使用するオペレーターも清掃・給油・点検・異常発見など基本的保全活動に参加し、設備を自分たちで守る力を高める」という記述に対応する。保全専門員だけでなく現場オペレーターが日常保全と異常の早期発見に関与する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0088 IE・品質・保全 > 設備保全・TPM・5S・改善 | 難易度：標準

論点：5Sの『清掃』の捉え方として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「しつけの説明に近い。」

- ア：対応する記述：汚れを取り除くだけでなく、清掃を通じて漏れ・緩み・摩耗など異常を発見しやすい状態をつくる
- イ：対応する記述：不要品を区分して処分することだけを指す
- ウ：対応する記述：必要品の置き場所を決めることだけを指す
- エ：対応する記述：決めた状態を習慣として守ることだけを指す

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「5Sは職場環境整備に加え、異常の顕在化と標準維持の基盤となる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「整理の説明である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「整頓の説明である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。しつけの説明に近い。
総合解説：提示された評価理由は「決めた状態を習慣として守ることだけを指す」という記述に対応する。しつけの説明に近い。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0089 IE・品質・保全 > 設備保全・TPM・5S・改善 | 難易度：応用

論点：設備総合効率（OEE）の考え方として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「稼働・速度・品質損失を反映しない。」

- ア：対応する記述：設備購入価格だけで効率を判断する
- イ：対応する記述：故障停止時間だけを見て品質不良や速度低下は無視する
- ウ：対応する記述：OEEを上げるため仕掛品を無制限に増やす
- エ：対応する記述：設備の時間稼働、性能発揮、良品率の損失を統合して、設備が価値ある生産へどれだけ有効利用されたかを見る

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。稼働・速度・品質損失を反映しない。
イ：この記述の評価理由は「OEEは複数のロスを統合する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「局所稼働率最大化とシステム最適は異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「一般にOEEは稼働率×性能稼働率×良品率で表し、停止・速度・不良の主要ロスを統合する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「設備購入価格だけで効率を判断する」という記述に対応する。稼働・速度・品質損失を反映しない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0090 IE・品質・保全 > 設備保全・TPM・5S・改善 | 難易度：応用

論点：改善活動を持続させる方法として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「改善と標準化を循環させることで成果の後戻りを防ぎ、継続改善を可能にする。」

- ア：対応する記述：改善目標は現場と共有せず結果も確認しない
- イ：対応する記述：改善後の良い方法を標準化し、その標準を守りながら新たな問題を見つけて次の改善へつなげる
- ウ：対応する記述：改善案を実施したら標準を更新せず個人の記憶だけに任せる
- エ：対応する記述：一度改善した工程は二度と測定しない

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「参加と効果確認を損なう。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。改善と標準化を循環させることで成果の後戻りを防ぎ、継続改善を可能にする。
ウ：この記述の評価理由は「再現性がなく後戻りしやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「環境変化や新たな問題を把握できない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「改善後の良い方法を標準化し、その標準を守りながら新たな問題を見つけて次の改善へつなげる」という記述に対応する。改善と標準化を循環させることで成果の後戻りを防ぎ、継続改善を可能にする。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0091 店舗・販売管理 > 店舗施設・商圏・立地 | 難易度：基礎

論点：小売店舗の『商圏』の説明として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「商圏は店舗外部の顧客市場範囲を表す。」

- ア：対応する記述：都道府県境と必ず一致する
- イ：対応する記述：当該店舗が継続的に顧客を吸引すると見込まれる地理的な市場範囲であり、人口・競合・交通・店舗魅力度などの影響を受ける
- ウ：対応する記述：店舗の建物内部だけを示す用語である
- エ：対応する記述：競合店舗の存在によって変化しない

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「行政境界と実際の購買行動は一致しないことがある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「商圏は単なる行政区域ではなく、顧客が実際に来店する可能性のある市場範囲として捉える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。商圏は店舗外部の顧客市場範囲を表す。
エ：この記述の評価理由は「競合の立地・魅力度は商圏の重なりや吸引力に影響する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「店舗の建物内部だけを示す用語である」という記述に対応する。商圏は店舗外部の顧客市場範囲を表す。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0092 店舗・販売管理 > 店舗施設・商圏・立地 | 難易度：基礎

論点：一次商圏と二次商圏を区分する考え方として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「商圏を顧客密度や売上寄与で段階化すると、重点エリア別の販促・出店判断に使いやすい。」

- ア：対応する記述：一次商圏は競合店だけが存在する地域を指す
- イ：対応する記述：二次商圏は店舗から最も近い地点だけを指す
- ウ：対応する記述：一次・二次商圏は必ず同じ面積に設定する
- エ：対応する記述：一般に一次商圏は来店顧客の中心的地域、二次商圏はそれより来店密度が低い周辺地域として把握する

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「一次商圏は自店顧客の中心地域である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「通常は一次商圏より外側の周辺地域を指す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「顧客分布や交通条件に応じて異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。商圏を顧客密度や売上寄与で段階化すると、重点エリア別の販促・出店判断に使いやすい。
総合解説：提示された評価理由は「一般に一次商圏は来店顧客の中心的地域、二次商圏はそれより来店密度が低い周辺地域として把握する」という記述に対応する。商圏を顧客密度や売上寄与で段階化すると、重点エリア別の販促・出店判断に使いやすい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0093 店舗・販売管理 > 店舗施設・商圈・立地 | 難易度：基礎

論点：ライリーの小売引力法則の基本的な考え方として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「通常は距離の増加により吸引力は弱まる。」

- ア：対応する記述：距離が遠いほど必ず吸引力が強くなると仮定する
- イ：対応する記述：2都市の小売吸引力を、都市規模と消費者から各都市までの距離の関係によって捉える
- ウ：対応する記述：店舗の粗利益率だけで商圈境界を決める
- エ：対応する記述：顧客の購買確率を価格だけで決める

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。通常は距離の増加により吸引力は弱まる。
イ：この記述の評価理由は「都市規模が大きいほど吸引力が強く、距離が遠いほど吸引力が弱まるという重力型の考え方である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「都市規模と距離を用いる考え方である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「価格単独のモデルではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「距離が遠いほど必ず吸引力が強くなると仮定する」という記述に対応する。通常は距離の増加により吸引力は弱まる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0094 店舗・販売管理 > 店舗施設・商圈・立地 | 難易度：標準

論点：ハフモデルの特徴として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「確率的な店舗選択を扱う。」

- ア：対応する記述：店舗面積や魅力度を一切考慮しない
- イ：対応する記述：各消費者は最寄り店舗を100%選ぶと固定する
- ウ：対応する記述：競合店舗が増えても自店選択確率は変わらない
- エ：対応する記述：消費者が複数店舗のうち特定店舗を選ぶ確率を、店舗魅力度と距離抵抗の相対関係から推定する

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「店舗魅力度は重要な要素である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。確率的な店舗選択を扱う。
ウ：この記述の評価理由は「相対魅力度で計算するため競合の影響を受ける。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「商圈を境界線だけで切るのではなく、複数店舗への選択確率として扱う点が特徴である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「各消費者は最寄り店舗を100%選ぶと固定する」という記述に対応する。確率的な店舗選択を扱う。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0095

店舗・販売管理 > 店舗施設・商圏・立地 | 難易度：標準

論点：郊外型店舗の候補地を比較する際、アクセス面の評価として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「直線距離が近くても、進入しにくい立地では実質的なアクセス性が低い。」

ア：対応する記述：店舗までの直線距離だけでアクセス性を完全に判断できる

イ：対応する記述：地代が安ければ道路条件は無視してよい

ウ：対応する記述：幹線道路からの進入容易性、右左折制約、視認性、駐車場への入出庫、安全性などを実際の来店動線として評価する

エ：対応する記述：候補地から店舗看板が見えれば交通条件は確認しなくてよい

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「道路網や交差点、移動時間等が影響する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「安価でも来店阻害が大きければ売上機会を失う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。直線距離が近くても、進入しにくい立地では実質的なアクセス性が低い。

エ：この記述の評価理由は「進入・退出条件や交通量も重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「幹線道路からの進入容易性、右左折制約、視認性、駐車場への入出庫、安全性などを実際の来店動線として評価する」という記述に対応する。直線距離が近くても、進入しにくい立地では実質的なアクセス性が低い。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0096

店舗・販売管理 > 店舗施設・商圏・立地 | 難易度：標準

論点：スーパーマーケットで多用されるグリッド型レイアウトの特徴として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「これはフリーフロー型の特徴に近い。」

ア：対応する記述：顧客を必ず1本の環状通路だけで誘導する

イ：対応する記述：棚を置かず全商品を倉庫から都度取り出す

ウ：対応する記述：棚を規則的・平行に配置し、売場効率や商品探索のしやすさを高めやすい

エ：対応する記述：通路を不規則に曲げ、探索性より滞在体験を最優先する

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「これはレーストラック型の特徴に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「グリッド型の説明ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「定番商品が多い店舗で、陳列容量と買物効率を確保しやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。これはフリーフロー型の特徴に近い。

総合解説：提示された評価理由は「通路を不規則に曲げ、探索性より滞在体験を最優先する」という記述に対応する。これはフリーフロー型の特徴に近い。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0097 店舗・販売管理 > 店舗施設・商圏・立地 | 難易度：標準

論点：フリーフロー型レイアウトが比較的適している店舗として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「自由度の高い配置は雰囲気や商品発見を演出しやすい一方、売場効率はグリッド型より下がる場合がある。」

ア：対応する記述：アパレルや専門店のように、回遊・発見・ブランド体験を重視し、什器配置に柔軟性を持たせたい店舗

イ：対応する記述：大量の定番食品を最短時間で探すことだけを重視する大型食品スーパー

ウ：対応する記述：倉庫内のパレット保管だけを行う物流施設

エ：対応する記述：製造ラインの工程順序を固定する工場

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。自由度の高い配置は雰囲気や商品発見を演出しやすい一方、売場効率はグリッド型より下がる場合がある。

イ：この記述の評価理由は「一般には規則的なグリッド型が適しやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「小売売場レイアウトの話ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「店舗レイアウトではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「アパレルや専門店のように、回遊・発見・ブランド体験を重視し、什器配置に柔軟性を持たせたい店舗」という記述に対応する。自由度の高い配置は雰囲気や商品発見を演出しやすい一方、売場効率はグリッド型より下がる場合がある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0098 店舗・販売管理 > 店舗施設・商圏・立地 | 難易度：標準

論点：レーストラック型レイアウトの狙いとして最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「顧客向け売場の主要動線設計である。」

ア：対応する記述：売場を完全に無秩序に配置する

イ：対応する記述：バックヤードの搬送経路だけを指す

ウ：対応する記述：主通路を周回させて複数売場への接触機会を作り、顧客を店内各ゾーンへ誘導する

エ：対応する記述：顧客を入口から最短距離で出口へ直行させる

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「主動線を設計する方式である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。顧客向け売場の主要動線設計である。

ウ：この記述の評価理由は「大規模店などで店内回遊を促進し、売場全体を見てもらう狙いがある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「回遊促進と反対である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「バックヤードの搬送経路だけを指す」という記述に対応する。顧客向け売場の主要動線設計である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0099 店舗・販売管理 > 店舗施設・商圏・立地 | 難易度：応用

論点：既存店の近隣に同一チェーンの新店を出す場合、出店評価で特に注意すべき点として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「既存店からの移転を過大評価する。」

ア：対応する記述：新店単体の売上だけでなく、既存店からの需要移転でチェーン全体の増分利益が小さくなるカニバリゼーションを評価する

イ：対応する記述：既存店の売上変化は新店評価と無関係である

ウ：対応する記述：新店売上はすべて市場の新規需要とみなす

エ：対応する記述：競合店の反応は自社内出店なので考慮不要である

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「商圏が重なる場合は新店売上の一部が自社既存店から移るため、ネットの増分効果で判断する必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「チェーン全体の収益性に直結する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。既存店からの移転を過大評価する。

エ：この記述の評価理由は「競合の価格・販促・出店反応も影響し得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「新店売上はすべて市場の新規需要とみなす」という記述に対応する。既存店からの移転を過大評価する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0100 店舗・販売管理 > 店舗施設・商圏・立地 | 難易度：応用

論点：ある候補地Aは人口が多いが競合も多く家賃が高い。候補地Bは人口は少ないが競合が弱く交通結節点に近い。出店判断として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「立地評価は単一指標ではなく、商圏需要とコスト・競争・自社ネットワークを組み合わせで判断する。」

ア：対応する記述：交通結節点なら商圏人口は一切確認しない

イ：対応する記述：人口が最大の地点を無条件で選ぶ

ウ：対応する記述：賃料が最安の地点を無条件で選ぶ

エ：対応する記述：人口規模だけで決めず、需要規模、競争強度、アクセス、賃料、想定売上、既存店との重複を統合して投資採算を比較する

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「通行量だけで購買力を保証できない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「競争や家賃を無視している。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「需要とアクセスを無視している。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。立地評価は単一指標ではなく、商圏需要とコスト・競争・自社ネットワークを組み合わせで判断する。

総合解説：提示された評価理由は「人口規模だけで決めず、需要規模、競争強度、アクセス、賃料、想定売上、既存店との重複を統合して投資採算を比較する」という記述に対応する。立地評価は単一指標ではなく、商圏需要とコスト・競争・自社ネットワークを組み合わせで判断する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0101 店舗・販売管理 > マーチャンダイジング・商品管理 | 難易度：基礎

論点：マーチャンダイジングの基本的な目的として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「過剰在庫や値下げ損失を招く。」

- ア：対応する記述：仕入数量を最大化することだけを目的とする
- イ：対応する記述：標的顧客に対して適切な商品を、適切な数量・時期・価格・場所で提供し、売上と利益、在庫のバランスを管理する
- ウ：対応する記述：店舗ごとの顧客特性を無視して全店同一数量を配荷することだけを指す
- エ：対応する記述：売上を無視して在庫を最小化することだけを目的とする

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。過剰在庫や値下げ損失を招く。
イ：この記述の評価理由は「商品計画は品揃え・仕入・価格・陳列・在庫を一体として設計する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「地域・店舗差に応じた品揃え調整も重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「欠品による機会損失とのバランスが必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「仕入数量を最大化することだけを目的とする」という記述に対応する。過剰在庫や値下げ損失を招く。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0102 店舗・販売管理 > マーチャンダイジング・商品管理 | 難易度：基礎

論点：品揃えの『幅』と『深さ』の説明として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「広く浅い、狭く深いなど業態戦略に応じて組み合わせる。」

- ア：対応する記述：深さは取扱カテゴリー数だけを表す
- イ：対応する記述：幅は取り扱う商品カテゴリーの広がり、深さは各カテゴリー内でのブランド・サイズ・色など選択肢の多さを表す
- ウ：対応する記述：幅は在庫金額、深さは売場面積だけを表す
- エ：対応する記述：幅と深さは必ず同時に最大化しなければならない

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「カテゴリー数は幅に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。広く浅い、狭く深いなど業態戦略に応じて組み合わせる。
ウ：この記述の評価理由は「品揃え構成の概念である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「在庫・売場制約とのトレードオフがある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「幅は取り扱う商品カテゴリーの広がり、深さは各カテゴリー内でのブランド・サイズ・色など選択肢の多さを表す」という記述に対応する。広く浅い、狭く深いなど業態戦略に応じて組み合わせる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0103 店舗・販売管理 > マーチャンダイジング・商品管理 | 難易度：基礎

論点：SKUの説明として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「SKUとは無関係である。」

- ア：対応する記述：店舗全体を1つにまとめた利益管理単位だけを指す
- イ：対応する記述：在庫管理上、商品をサイズ・色・仕様などの違いまで識別して扱う最小管理単位
- ウ：対応する記述：物流センターの建物面積を示す単位である
- エ：対応する記述：顧客一人ひとりを識別する会員番号を指す

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「商品レベルの在庫管理単位である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「同じ商品名でも色やサイズが異なれば別SKUとして管理される場合がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。SKUとは無関係である。
エ：この記述の評価理由は「顧客IDとは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「物流センターの建物面積を示す単位である」という記述に対応する。SKUとは無関係である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0104 店舗・販売管理 > マーチャンダイジング・商品管理 | 難易度：基礎

論点：カテゴリー・マネジメントの考え方として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「統合的なカテゴリー運営と反する。」

- ア：対応する記述：関連商品群を顧客ニーズに基づく戦略的事業単位として捉え、品揃え・価格・販促・棚割を統合してカテゴリー成果を高める
- イ：対応する記述：メーカー別にしか商品を分類してはならない
- ウ：対応する記述：棚割や販促はカテゴリー成果と無関係である
- エ：対応する記述：各SKUを独立に管理しカテゴリー間の役割を考えない

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「単品最適ではなくカテゴリー全体の顧客価値と収益を管理する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「顧客の購買目的に基づくカテゴリー設計が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「重要な実行手段である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。統合的なカテゴリー運営と反する。
総合解説：提示された評価理由は「各SKUを独立に管理しカテゴリー間の役割を考えない」という記述に対応する。統合的なカテゴリー運営と反する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0105

店舗・販売管理 > マーチャンダイジング・商品管理 | 難易度：標準

論点：プラノグラム（棚割計画）の活用目的として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「棚スペース配分をデータと戦略に基づき可視化する。」

ア：対応する記述：棚位置・フェイス数・陳列順序などを計画し、限られた棚スペースで視認性、補充効率、売上・利益を高める

イ：対応する記述：商品コードを廃止する

ウ：対応する記述：従業員の給与計算を行う

エ：対応する記述：建物の耐震計算を行う

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。棚スペース配分をデータと戦略に基づき可視化する。

イ：この記述の評価理由は「商品識別と棚割は補完関係にある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「棚割とは無関係である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「店舗施設設計の別領域である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「棚位置・フェイス数・陳列順序などを計画し、限られた棚スペースで視認性、補充効率、売上・利益を高める」という記述に対応する。棚スペース配分をデータと戦略に基づき可視化する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0106

店舗・販売管理 > マーチャンダイジング・商品管理 | 難易度：標準

論点：Open-to-Buy（OTB）管理の趣旨として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「商品計画との整合が必要である。」

ア：対応する記述：既発注額を無視して追加発注枠を計算する

イ：対応する記述：現金支払可能額だけで仕入上限を決め、在庫計画は見ない

ウ：対応する記述：売上計画が変わってもOTBは必ず固定する

エ：対応する記述：計画売上・計画在庫・既発注額等を踏まえ、一定期間に追加発注できる金額枠を管理する

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「発注残を考慮しないと過剰仕入になり得る。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。商品計画との整合が必要である。

ウ：この記述の評価理由は「販売状況に応じて更新する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「仕入を予算枠内に保ちつつ売上計画と期末在庫目標を整合させるために用いる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「現金支払可能額だけで仕入上限を決め、在庫計画は見ない」という記述に対応する。商品計画との整合が必要である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0107 店舗・販売管理 > マーチャンダイジング・商品管理 | 難易度：標準

論点：セルスルー率（sell-through rate）の利用として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「販売消化の速さを捉える指標で、季節商品やファッション商品で特に有用である。」

- ア：対応する記述：仕入数量が多いほど無条件に高くなる
- イ：対応する記述：店舗面積当たり売上だけを表す
- ウ：対応する記述：一定期間に入荷・投入した商品のうち、どの程度が販売されたかを把握し、追加発注や値下げ判断に使う
- エ：対応する記述：粗利益率だけを表す指標である

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「販売量との比率であり、過剰入荷は率を下げることもある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「売場生産性とは異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。販売消化の速さを捉える指標で、季節商品やファッション商品で特に有用である。
 - エ：この記述の評価理由は「販売数量の消化度をみる指標である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- 総合解説：提示された評価理由は「一定期間に入荷・投入した商品のうち、どの程度が販売されたかを把握し、追加発注や値下げ判断に使う」という記述に対応する。販売消化の速さを捉える指標で、季節商品やファッション商品で特に有用である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0108 店舗・販売管理 > マーチャンダイジング・商品管理 | 難易度：標準

論点：季節商品の値下げ（markdown）を行う主な目的として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「販売実績・残存期間を見て判断する。」

- ア：対応する記述：需要期終了前に販売を促進して滞留在庫を現金化し、残品処分損や翌期への持越しを抑える
- イ：対応する記述：需要期を過ぎても在庫を増やし続けるため
- ウ：対応する記述：粗利益率を必ず上昇させるため
- エ：対応する記述：商品の販売速度と無関係に一律実施するため

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「値下げは粗利益率を下げる一方、在庫回転や売切りを改善する可能性がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「在庫圧縮が主目的である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：この記述の評価理由は「値下げは1点当たり粗利益率を下げるのが通常である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。販売実績・残存期間を見て判断する。
- 総合解説：提示された評価理由は「商品の販売速度と無関係に一律実施するため」という記述に対応する。販売実績・残存期間を見て判断する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0109 店舗・販売管理 > マーチャンダイジング・商品管理 | 難易度：標準

論点：商品管理でABC分析を行う狙いとして最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「重点管理という目的に反する。」

- ア：対応する記述：全SKUを同じ管理頻度にする
- イ：対応する記述：売れない商品ほど必ずAに分類する
- ウ：対応する記述：売上・粗利益・使用金額などへの寄与が大きい重点品目を識別し、管理資源を重点配分する
- エ：対応する記述：在庫管理とは無関係な顧客年齢分類だけを行う

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。重点管理という目的に反する。
イ：この記述の評価理由は「通常は重要度や金額寄与の大きさとで分類する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「重要度の高い少数品目を厳密に管理し、低寄与品目は簡素化する考え方である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「品目重要度の分類である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「全SKUを同じ管理頻度にする」という記述に対応する。重点管理という目的に反する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0110 店舗・販売管理 > マーチャンダイジング・商品管理 | 難易度：標準

論点：SKU合理化（SKU rationalization）を行う際の判断として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「単純な売上順位だけでは、集客商品や補完商品の役割を見落とす可能性がある。」

- ア：対応する記述：SKU数は多いほど必ず顧客満足が高まる
- イ：対応する記述：売上だけでなく粗利益、在庫回転、代替可能性、顧客支持、カテゴリー役割を見て低生産性SKUの削減・入替えを判断する
- ウ：対応する記述：在庫回転率はSKU削減判断に使えない
- エ：対応する記述：売上順位が低いSKUを理由を問わず全て即時廃止する

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「選択過多、在庫増、棚効率低下を招く場合がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。単純な売上順位だけでは、集客商品や補完商品の役割を見落とす可能性がある。
ウ：この記述の評価理由は「重要な生産性指標の一つである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「戦略的役割や代替関係を考慮すべきである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「売上だけでなく粗利益、在庫回転、代替可能性、顧客支持、カテゴリー役割を見て低生産性SKUの削減・入替えを判断する」という記述に対応する。単純な売上順位だけでは、集客商品や補完商品の役割を見落とす可能性がある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0111 店舗・販売管理 > マーチャンダイジング・商品管理 | 難易度：応用

論点：ある季節商品について、販売期間の半分が経過した時点で在庫の75%が残り、直近の販売速度も計画を下回っている。最も合理的な対応はどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「在庫残リスクを無視している。」

ア：対応する記述：残存販売期間、値下げ後需要、粗利益減少、保管・廃棄リスクを比較し、早めの値下げや販促で消化を加速する

イ：対応する記述：在庫数量を確認せず広告費だけを増やす

ウ：対応する記述：販売速度に関係なく当初価格を期末まで固定する

エ：対応する記述：売れ行きが悪いので同量を追加発注する

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「季節末まで判断を遅らせると、より深い値下げや残品処分が必要になる可能性が高い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「在庫・利益・販促効果の統合判断が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。在庫残リスクを無視している。

エ：この記述の評価理由は「滞留を悪化させる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「販売速度に関係なく当初価格を期末まで固定する」という記述に対応する。在庫残リスクを無視している。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0112 店舗・販売管理 > マーチャンダイジング・商品管理 | 難易度：応用

論点：チェーン全体で同一カテゴリーの在庫回転が店舗ごとに大きく異なる場合の分析として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「店舗特性を無視した一律配荷は、欠品と過剰在庫を同時に生みやすい。」

ア：対応する記述：店舗差は偶然と決めつけ、配荷を変更しない

イ：対応する記述：全店の在庫を最大店舗と同じ数量に増やす

ウ：対応する記述：回転の低い店舗では売上データを見ずに商品数だけ増やす

エ：対応する記述：店舗別の客層・商圏・棚割・価格・販促・在庫配分を比較し、需要差と運用差を切り分けて品揃えや配荷を調整する

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「データに継続的な差があるなら要因分析すべきである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「需要差を無視している。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「原因分析が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。店舗特性を無視した一律配荷は、欠品と過剰在庫を同時に生みやすい。

総合解説：提示された評価理由は「店舗別の客層・商圏・棚割・価格・販促・在庫配分を比較し、需要差と運用差を切り分けて品揃えや配荷を調整する」という記述に対応する。店舗特性を無視した一律配荷は、欠品と過剰在庫を同時に生みやすい。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0113 店舗・販売管理 > 価格・販売促進・顧客管理 | 難易度：基礎

論点：EDLP（Everyday Low Price）戦略の説明として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「持続可能な価格戦略ではない。」

- ア：対応する記述：全商品を原価以下で販売する戦略
- イ：対応する記述：競合価格を一切考慮せず価格を固定することを意味する
- ウ：対応する記述：通常時から相対的に安定した低価格を提示し、頻繁な特売依存を減らして価格イメージと運営効率を高める戦略
- エ：対応する記述：通常価格を高くし特売時だけ大幅値下げする戦略

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。持続可能な価格戦略ではない。
イ：この記述の評価理由は「市場環境を無視する戦略ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「高低価格戦略に比べ、価格変動を抑えて日常的な低価格を訴求する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「High-Low戦略に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「全商品を原価以下で販売する戦略」という記述に対応する。持続可能な価格戦略ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0114 店舗・販売管理 > 価格・販売促進・顧客管理 | 難易度：基礎

論点：ロスリーダー（loss leader）の活用として最も適切な説明はどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「店舗全体の持続可能性を失う。」

- ア：対応する記述：一部の目玉商品を低価格で訴求して来店を促し、関連商品の購買を含む店舗全体の利益で回収する考え方
- イ：対応する記述：全商品を恒常的に赤字販売すること
- ウ：対応する記述：価格を上げて来店頻度を下げること
- エ：対応する記述：目玉商品と関連購買の関係を測定しないこと

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「単品利益だけでなく客数増とバスケット全体の採算で評価する必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。店舗全体の持続可能性を失う。
ウ：この記述の評価理由は「集客目的と反対である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「波及効果の検証が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「全商品を恒常的に赤字販売すること」という記述に対応する。店舗全体の持続可能性を失う。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0115 店舗・販売管理 > 価格・販売促進・顧客管理 | 難易度：標準

論点：需要の価格弾力性が高い商品の価格を小幅に引き下げた場合、他条件が一定なら一般に期待される反応として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「弾力的需要では需要量が価格変化に強く反応する。」

- ア：対応する記述：需要量の増加率は必ず価格低下率より小さい
- イ：対応する記述：需要量は価格に全く反応しない
- ウ：対応する記述：価格の低下率より需要量の増加率が大きくなりやすく、売上高が増える可能性がある
- エ：対応する記述：価格を下げると需要量も必ず同率で下がる

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「これは非弾力的な場合に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「弾力性が高いという前提に反する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。弾力的需要では需要量が価格変化に強く反応する。
エ：この記述の評価理由は「通常は価格低下で需要量は増える方向である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「価格の低下率より需要量の増加率が大きくなりやすく、売上高が増える可能性がある」という記述に対応する。弾力的需要では需要量が価格変化に強く反応する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0116 店舗・販売管理 > 価格・販売促進・顧客管理 | 難易度：標準

論点：メーカーが小売店に陳列協力金や販売奨励を提示する施策は、消費者向けクーポンと比べてどの分類に近い。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「チャネルへの直接インセンティブではない。」

- ア：対応する記述：流通業者に働きかけるプッシュ型のトレード・プロモーション
- イ：対応する記述：従業員教育だけを目的とした人的資源施策
- ウ：対応する記述：在庫評価方法の変更
- エ：対応する記述：最終消費者の指名買いだけを促すプル型広告

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「チャネル構成員に取扱い・陳列・販売を促す施策である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「販売促進施策である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「会計処理とは無関係である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。チャネルへの直接インセンティブではない。
総合解説：提示された評価理由は「最終消費者の指名買いだけを促すプル型広告」という記述に対応する。チャネルへの直接インセンティブではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0117 店舗・販売管理 > 価格・販売促進・顧客管理 | 難易度：標準

論点：CRMの基本的な目的として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「一回の販売だけでなく関係継続を重視する。」

- ア：対応する記述：顧客ごとの取引・反応・接点情報を活用し、獲得・維持・育成を通じて長期的な顧客価値と企業収益を高める
- イ：対応する記述：既存顧客を無視して新規顧客だけを追う
- ウ：対応する記述：全顧客へ常に同じメッセージだけを送る
- エ：対応する記述：顧客データを集めること自体を最終目的とする

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。一回の販売だけでなく関係継続を重視する。
イ：この記述の評価理由は「維持・育成も重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「顧客差を活用しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「分析と施策への活用が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「顧客ごとの取引・反応・接点情報を活用し、獲得・維持・育成を通じて長期的な顧客価値と企業収益を高める」という記述に対応する。一回の販売だけでなく関係継続を重視する。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0118 店舗・販売管理 > 価格・販売促進・顧客管理 | 難易度：標準

論点：RFM分析の3要素の組合せとして最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「RFMの正式な3要素ではない。」

- ア：対応する記述：Reach、Forecast、Marginだけを意味する
- イ：対応する記述：Rate、Flow、Marketだけを意味する
- ウ：対応する記述：Return、Facility、Merchandiseだけを意味する
- エ：対応する記述：Recency（最終購買の新しさ）、Frequency（購買頻度）、Monetary（購買金額）

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「標準的なRFMの定義ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。RFMの正式な3要素ではない。
ウ：この記述の評価理由は「小売施設概念の組合せではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「顧客の購買履歴を3軸で評価し、優良顧客候補や休眠顧客を識別する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「Rate、Flow、Marketだけを意味する」という記述に対応する。RFMの正式な3要素ではない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0119 店舗・販売管理 > 価格・販売促進・顧客管理 | 難易度：応用

論点：顧客生涯価値（CLV/LTV）の考え方として最も適切なものはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「継続取引を無視している。」

- ア：対応する記述：顧客維持施策の費用は考慮しない
- イ：対応する記述：顧客数が多いほど各顧客の価値は必ず同じになる
- ウ：対応する記述：初回購入時の売上高だけで顧客価値を決める
- エ：対応する記述：顧客との将来にわたる取引から得られる利益を、維持コスト等も考慮して現在価値として評価する考え方

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「利益ベースの価値評価ではコストも重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「購買頻度・利益率・維持率等で異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。継続取引を無視している。
エ：この記述の評価理由は「獲得費用や継続率を含め、長期的な顧客関係の経済性を判断する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「初回購入時の売上高だけで顧客価値を決める」という記述に対応する。継続取引を無視している。 この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0120 店舗・販売管理 > 価格・販売促進・顧客管理 | 難易度：応用

論点：会員データを分析したところ、高額購入者の一部が最近来店しておらず、低額でも高頻度の顧客は継続来店している。最も適切な施策設計はどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「顧客状態ごとに目的とオファーを変える方がCRMの考え方に合う。」

- ア：対応する記述：最近来店していない顧客は過去購買額に関係なく全て除外する
- イ：対応する記述：購買頻度の高い顧客には追加提案を一切行わない
- ウ：対応する記述：全会員へ同一の割引率を無期限配布する
- エ：対応する記述：購買金額だけで一括優遇せず、RFMや反応履歴でセグメント化し、休眠高額客には再来店施策、高頻度客には維持・クロスセル施策を使い分ける

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「再活性化価値を見落とす。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「クロスセルやロイヤルティ向上機会を失う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「顧客状態に応じた資源配分ができない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。顧客状態ごとに目的とオファーを変える方がCRMの考え方に合う。
総合解説：提示された評価理由は「購買金額だけで一括優遇せず、RFMや反応履歴でセグメント化し、休眠高額客には再来店施策、高頻度客には維持・クロスセル施策を使い分ける」という記述に対応する。顧客状態ごとに目的とオファーを変える方がCRMの考え方に合う。 この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0121

流通・物流・数値管理 > 在庫管理・発注量 | 難易度：基礎

論点：経済的発注量（EOQ）モデルの基本的なトレードオフとして最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「EOQは発注費用と保管費用を中心に扱う。」

ア：対応する記述：売価と原価の差だけで発注量を決める

イ：対応する記述：発注量を増やせば発注費用も保管費用も必ず同時に下がる

ウ：対応する記述：発注1回当たりの発注費用と、在庫を保有するための保管費用をバランスさせて総関連費用を小さくする

エ：対応する記述：需要量に関係なく常に1個ずつ発注する

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。EOQは発注費用と保管費用を中心に扱う。

イ：この記述の評価理由は「保管費用は通常増える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「発注量を大きくすると発注回数は減るが平均在庫が増え、両費用のトレードオフが生じる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「費用最小化の結果ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「売価と原価の差だけで発注量を決める」という記述に対応する。EOQは発注費用と保管費用を中心に扱う。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0122

流通・物流・数値管理 > 在庫管理・発注量 | 難易度：基礎

論点：年間需要3,600個、1回の発注費用500円、1個当たり年間保管費用100円とする。基本EOQとして最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「基本EOQ式を用いると約190個である。」

ア：対応する記述：約500個。発注費用の金額をそのまま数量にしたもので根拠がない

イ：対応する記述：約190個。 $EOQ = \sqrt{(2 \times 3,600 \times 500 \div 100)}$ 189.7個となる

ウ：対応する記述：約3,600個。年間需要を1回で全量発注するため平均在庫が過大になる

エ：対応する記述：約36個。年間需要を保管費用で単純に割った値でありEOQ式ではない

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「単位も一致しない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。基本EOQ式を用いると約190個である。

ウ：この記述の評価理由は「総関連費用最小化とは限らない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「発注費用が反映されていない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「約190個。 $EOQ = \sqrt{(2 \times 3,600 \times 500 \div 100)}$ 189.7個となる」という記述に対応する。基本EOQ式を用いると約190個である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0123

流通・物流・数値管理 > 在庫管理・発注量 | 難易度：基礎

論点：1日平均需要40個、調達リードタイム5日で需要とリードタイムが一定、安全在庫を持たない場合の発注点として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「安全在庫なしの前提では200個である。」

- ア：対応する記述：200個。発注点はリードタイム中の需要40×5で求める
- イ：対応する記述：45個。需要と日数を加算しており単位が合わない
- ウ：対応する記述：400個。リードタイム需要を2倍する根拠がない
- エ：対応する記述：40個。1日分だけでは5日のリードタイムを賄えない

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「在庫ポジションが200個になった時点で発注すれば、理論上入荷時に在庫が尽きる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「数量は需要率×時間で求める。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。安全在庫なしの前提では200個である。
エ：この記述の評価理由は「リードタイム需要を考える必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「400個。リードタイム需要を2倍する根拠がない」という記述に対応する。安全在庫なしの前提では200個である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0124

流通・物流・数値管理 > 在庫管理・発注量 | 難易度：基礎

論点：1日平均需要40個、リードタイム5日、安全在庫50個の場合の発注点として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「安全在庫は不足リスクに備えて加える。」

- ア：対応する記述：450個。40×5に安全在庫を5倍して加えている
- イ：対応する記述：250個。リードタイム需要200個に安全在庫50個を加える
- ウ：対応する記述：200個。安全在庫を全く反映していない
- エ：対応する記述：150個。安全在庫をリードタイム需要から差し引いている

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「安全在庫50個は既に数量で与えられている。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「発注点＝リードタイム中平均需要＋安全在庫である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「50個分不足する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。安全在庫は不足リスクに備えて加える。
総合解説：提示された評価理由は「150個。安全在庫をリードタイム需要から差し引いている」という記述に対応する。安全在庫は不足リスクに備えて加える。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0125

流通・物流・数値管理 > 在庫管理・発注量 | 難易度：標準

論点：安全在庫を増やした場合、他条件が同じなら一般に生じる関係として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「サービス水準と在庫費用のトレードオフが生じる。」

- ア：対応する記述：欠品リスクは低下しやすいが、平均在庫と保管費用は増加する
- イ：対応する記述：平均在庫は変わらずサービス水準だけが上がる
- ウ：対応する記述：安全在庫は需要変動と無関係に設定する
- エ：対応する記述：欠品リスクと保管費用が同時に必ず低下する

答え・解説

正答：ア

- ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。サービス水準と在庫費用のトレードオフが生じる。
- イ：この記述の評価理由は「安全在庫分だけ平均在庫が増える。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- ウ：この記述の評価理由は「需要・リードタイムの不確実性と目標サービス水準を考慮する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：この記述の評価理由は「在庫量増加により保管費用は通常上がる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「欠品リスクは低下しやすいが、平均在庫と保管費用は増加する」という記述に対応する。サービス水準と在庫費用のトレードオフが生じる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0126

流通・物流・数値管理 > 在庫管理・発注量 | 難易度：標準

論点：定量発注方式（連続レビュー）と定期発注方式の違いとして最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「定義と異なる。」

- ア：対応する記述：定量発注は在庫を継続監視して発注点到達時に発注し、定期発注は一定間隔で在庫を確認して必要量を発注する
- イ：対応する記述：両方式とも在庫を一切確認せず同じ数量を発注する
- ウ：対応する記述：定期発注は需要変動があっても発注量を固定することを意味する
- エ：対応する記述：定量発注は発注時期を固定し、数量だけ変える方式である

答え・解説

正答：イ

- ア：この記述の評価理由は「レビューのタイミングが異なり、必要な安全在庫や運用負荷も変わる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。定義と異なる。
- ウ：この記述の評価理由は「通常は目標在庫までの不足分を発注する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- エ：この記述の評価理由は「これは定期発注に近い。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「両方式とも在庫を一切確認せず同じ数量を発注する」という記述に対応する。定義と異なる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0127

流通・物流・数値管理 > 在庫管理・発注量 | 難易度：標準

論点：ABC在庫管理でA品目に適した管理として最も適切なものはどれか。 次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「少数の重要品目へ管理資源を集中する。」

ア：対応する記述：A品目は必ず数量が最も多い品目である

イ：対応する記述：重要度が高いので実地棚卸を行わない

ウ：対応する記述：在庫金額や利益寄与が大きいため、需要予測・在庫精度・発注判断を高頻度かつ厳密に管理する

エ：対応する記述：C品目より管理頻度を低くする

答え・解説

正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「金額寄与等で分類するため数量とは限らない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「むしろ精度を高める必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。少数の重要品目へ管理資源を集中する。

エ：この記述の評価理由は「一般にはA品目を重点管理する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「在庫金額や利益寄与が大きいため、需要予測・在庫精度・発注判断を高頻度かつ厳密に管理する」という記述に対応する。少数の重要品目へ管理資源を集中する。 この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0128

流通・物流・数値管理 > 在庫管理・発注量 | 難易度：標準

論点：サイクルカウンティングの説明として最も適切なものはどれか。 学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「差異原因の是正が重要である。」

ア：対応する記述：在庫数量を帳簿だけで永久に更新し実物確認をしない方法

イ：対応する記述：全在庫を年1回だけ止めて数える代わりに、品目を分けて日常的・周期的に実地確認し在庫精度を維持する方法

ウ：対応する記述：需要予測の周期だけを短くする手法

エ：対応する記述：在庫差異を見つけても原因分析しない手法

答え・解説

正答：エ

ア：この記述の評価理由は「実地確認を行う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：この記述の評価理由は「A品目を高頻度に数えるなど重要度に応じた棚卸ができる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「棚卸精度の管理手法である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。差異原因の是正が重要である。

総合解説：提示された評価理由は「在庫差異を見つけても原因分析しない手法」という記述に対応する。差異原因の是正が重要である。 この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0129 流通・物流・数値管理 > 在庫管理・発注量 | 難易度：標準

論点：数量割引がある仕入で発注量を決める場合の考え方として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「保管費用増で総費用が高くなる場合がある。」

- ア：対応する記述：最も大きい割引率の数量を必ず選ぶ
- イ：対応する記述：購入費は総費用比較に含めない
- ウ：対応する記述：EOQを1回計算したら割引条件は無視する
- エ：対応する記述：割引後の購入費だけでなく、発注費用と保管費用を含む総費用を、価格区分ごとの実行可能な発注量で比較する

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。保管費用増で総費用が高くなる場合がある。
イ：この記述の評価理由は「数量割引では購入費差が重要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「価格区分ごとの比較が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「値引きで購入費は下がっても平均在庫が増えるため、総費用で判断する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「最も大きい割引率の数量を必ず選ぶ」という記述に対応する。保管費用増で総費用が高くなる場合がある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0130 流通・物流・数値管理 > 在庫管理・発注量 | 難易度：標準

論点：目標欠品率を引き下げ、より高い顧客サービス水準を求める場合、需要分布等が同じなら一般に必要な対応はどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「高サービス水準は通常より多くの保護在庫を必要とし、在庫費用とのトレードオフがある。」

- ア：対応する記述：安全在庫を減らして欠品余裕を小さくする
- イ：対応する記述：安全在庫を増やすなどして、需要・リードタイム変動に対する保護水準を高める
- ウ：対応する記述：発注点を下げて入荷を遅らせる
- エ：対応する記述：サービス水準と在庫政策は無関係なので変更不要

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「欠品リスクが上がる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。高サービス水準は通常より多くの保護在庫を必要とし、在庫費用とのトレードオフがある。
ウ：この記述の評価理由は「欠品リスクが上がる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「直接関係する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「安全在庫を増やすなどして、需要・リードタイム変動に対する保護水準を高める」という記述に対応する。高サービス水準は通常より多くの保護在庫を必要とし、在庫費用とのトレードオフがある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0131 流通・物流・数値管理 > 在庫管理・発注量 | 難易度：応用

論点：販売期間が1日だけで売れ残り価値が低い新聞・生鮮品の発注問題に適した考え方として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「単期間商品の特性に合わない。」

- ア：対応する記述：需要不確実性を考えず最大需要量を常に発注する
- イ：対応する記述：売れ残りコストが大きいほど発注量を無限に増やす
- ウ：対応する記述：毎日必ず年間需要のEOQをそのまま発注する
- エ：対応する記述：不足による機会損失と売れ残り損失を比較して最適数量を決める単期間在庫（ニュースベンダー）型の考え方

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「売れ残りリスクを無視している。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「むしろ過剰リスクを抑える方向である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。単期間商品の特性に合わない。
 - エ：この記述の評価理由は「繰越しできない商品ではEOQより、過少・過剰の限界損失バランスが重要になる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- 総合解説：提示された評価理由は「毎日必ず年間需要のEOQをそのまま発注する」という記述に対応する。単期間商品の特性に合わない。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0132 流通・物流・数値管理 > 在庫管理・発注量 | 難易度：応用

論点：ある商品で欠品が頻発している。平均需要は安定しているが、仕入先の納期遅延が大きい。改善策として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「欠品原因がリードタイム不確実性なら、在庫政策と供給プロセスの両方を改善する必要がある。」

- ア：対応する記述：欠品対策として販売価格だけを上げる
- イ：対応する記述：納期実績を測定せず発注量だけ毎回倍にする
- ウ：対応する記述：平均需要が安定しているので安全在庫は必ずゼロにする
- エ：対応する記述：需要だけでなくリードタイム変動を安全在庫・発注点へ反映し、同時に仕入先の納期安定化や代替調達も進める

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「供給不確実性の根本対策ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「過剰在庫を招き、原因管理もできない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：この記述の評価理由は「リードタイム変動による欠品を防げない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。欠品原因がリードタイム不確実性なら、在庫政策と供給プロセスの両方を改善する必要がある。
- 総合解説：提示された評価理由は「需要だけでなくリードタイム変動を安全在庫・発注点へ反映し、同時に仕入先の納期安定化や代替調達も進める」という記述に対応する。欠品原因がリードタイム不確実性なら、在庫政策と供給プロセスの両方を改善する必要がある。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0133

流通・物流・数値管理 > 物流・サプライチェーン | 難易度：基礎

論点：ロジスティクスとSCMの関係として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「企業間連携が重要である。」

ア：対応する記述：SCMでは他社との連携を避ける

イ：対応する記述：SCMは倉庫内作業だけを指し、ロジスティクスより狭い

ウ：対応する記述：ロジスティクスとSCMは財務会計だけを扱う

エ：対応する記述：ロジスティクスは輸送・保管・荷役・在庫等の物的流れを中心に統合管理し、SCMはそれを含め企業間の需要・供給・情報・計画をより広く連携させる

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。企業間連携が重要である。

イ：この記述の評価理由は「一般にSCMの方が広い企業間統合を扱う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「物・情報・需要供給の流れを扱う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「SCMは自社内物流だけでなくサプライヤーから顧客までの全体最適を志向する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「SCMでは他社との連携を避ける」という記述に対応する。企業間連携が重要である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0134

流通・物流・数値管理 > 物流・サプライチェーン | 難易度：基礎

論点：在庫型物流センター（DC）と通過型センター（TC）の違いとして最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「通過・仕分けが中心である。」

ア：対応する記述：両者は輸配送ネットワーク上の役割が常に同じである

イ：対応する記述：TCは必ず長期保管を主目的とする

ウ：対応する記述：DCは一定期間在庫を保管して出荷し、TCは入荷商品を長期保管せず仕分け・積替えして短時間で出荷することを重視する

エ：対応する記述：DCでは在庫を一切持てない

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「保管機能の強さが異なる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。通過・仕分けが中心である。

ウ：この記述の評価理由は「需要特性や納品頻度に応じて在庫機能と通過機能を使い分ける。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「在庫保管機能を持つ。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「TCは必ず長期保管を主目的とする」という記述に対応する。通過・仕分けが中心である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0135 流通・物流・数値管理 > 物流・サプライチェーン | 難易度：基礎

論点：クロスドッキングの説明として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「保管時間と在庫を減らす一方、入出荷の同期と情報精度が重要である。」

- ア：対応する記述：入荷品を長期間保管してから需要を待つ方式
- イ：対応する記述：商品コードを使わず目視だけで仕分ける方式
- ウ：対応する記述：入荷品を長期保管せず、仕分け・組替えを行って対応する出荷便へ短時間で接続し、在庫滞留を抑える方式
- エ：対応する記述：配送車両を使わず店舗が全て工場へ引き取りに行く方式

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「クロスドッキングと反対である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「高精度な同期・識別が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。保管時間と在庫を減らす一方、入出荷の同期と情報精度が重要である。
エ：この記述の評価理由は「定義ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「入荷品を長期保管せず、仕分け・組替えを行って対応する出荷便へ短時間で接続し、在庫滞留を抑える方式」という記述に対応する。保管時間と在庫を減らす一方、入出荷の同期と情報精度が重要である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0136 流通・物流・数値管理 > 物流・サプライチェーン | 難易度：標準

論点：3PL（Third-Party Logistics）の説明として最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「外部活用と反対である。」

- ア：対応する記述：3つの物流拠点を持つことだけを意味する
- イ：対応する記述：荷主が物流業務の全部または一部を外部の専門事業者へ委託し、輸配送・保管・情報管理等を統合的に任せる形態
- ウ：対応する記述：小売店が商品価格を第三者に決めてもらう制度
- エ：対応する記述：荷主が全物流機能を必ず自社社員で行う形態

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「拠点数の意味ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「単なる一回の輸送委託より広く、物流機能の設計・運営を包括する場合がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「物流委託の概念である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。外部活用と反対である。
総合解説：提示された評価理由は「荷主が全物流機能を必ず自社社員で行う形態」という記述に対応する。外部活用と反対である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0137 流通・物流・数値管理 > 物流・サプライチェーン | 難易度：標準

論点：ブルウィップ効果の説明として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「情報共有や発注ロット縮小、安定価格などで増幅を抑える。」

- ア：対応する記述：最終需要の小さな変動が、予測更新・まとめ発注・欠品時の過大注文などを通じて上流ほど大きな発注変動へ増幅される現象
- イ：対応する記述：物流費が数量に比例して一定になる現象
- ウ：対応する記述：POS情報を共有すると必ず増幅が大きくなる
- エ：対応する記述：上流に行くほど需要変動が必ず小さくなる現象

答え・解説 正答：ア

- ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。情報共有や発注ロット縮小、安定価格などで増幅を抑える。
 - イ：この記述の評価理由は「需要情報の増幅現象である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：この記述の評価理由は「実需情報共有はむしろ抑制に寄与する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - エ：この記述の評価理由は「逆である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- 総合解説：提示された評価理由は「最終需要の小さな変動が、予測更新・まとめ発注・欠品時の過大注文などを通じて上流ほど大きな発注変動へ増幅される現象」という記述に対応する。情報共有や発注ロット縮小、安定価格などで増幅を抑える。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0138 流通・物流・数値管理 > 物流・サプライチェーン | 難易度：標準

論点：VMI（Vendor Managed Inventory）の考え方として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「責任分担は契約で定めるが在庫管理そのものは必要である。」

- ア：対応する記述：小売側の販売・在庫情報を供給者が把握し、合意したルールの下で供給者が補充数量や時期を主体的に管理する
- イ：対応する記述：在庫責任を完全に消滅させる仕組み
- ウ：対応する記述：小売店が供給者の在庫情報を一切見ずに一方的に発注する
- エ：対応する記述：供給者は販売情報を受け取らず固定数量だけを送る

答え・解説 正答：イ

- ア：この記述の評価理由は「実需情報を基に補充を同期し、欠品と過剰在庫の低減を狙う。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。責任分担は契約で定めるが在庫管理そのものは必要である。
 - ウ：この記述の評価理由は「VMIの情報連携と反する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - エ：この記述の評価理由は「需要連動補充にならない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- 総合解説：提示された評価理由は「在庫責任を完全に消滅させる仕組み」という記述に対応する。責任分担は契約で定めるが在庫管理そのものは必要である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0139 流通・物流・数値管理 > 物流・サプライチェーン | 難易度：標準

論点：CPFRの狙いとして最も適切なものはどれか。 次の診断理由に対応する判断はどれか。「協働と反対である。」

- ア：対応する記述：価格交渉だけを行い需要予測は扱わない
- イ：対応する記述：小売・メーカー等が販売計画、需要予測、補充計画を共同で作成・共有し、需給の不一致を減らす
- ウ：対応する記述：企業間で需要情報を秘匿し、各社が独立に安全在庫を増やす
- エ：対応する記述：物流センターの建物を共同所有することだけを意味する

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「需要・補充計画の共同化が中心である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「企業間で例外情報を共有し、予測と補充の精度を高める協働プロセスである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。協働と反対である。
エ：この記述の評価理由は「所有形態の概念ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「企業間で需要情報を秘匿し、各社が独立に安全在庫を増やす」という記述に対応する。協働と反対である。 この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0140 流通・物流・数値管理 > 物流・サプライチェーン | 難易度：標準

論点：ミルクラン方式の集荷として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「各仕入先ごとの個別直送をまとめることで輸送効率を上げられる。」

- ア：対応する記述：各仕入先が必ず別々の空車で納品する
- イ：対応する記述：倉庫内で商品を長期保管する方式だけを指す
- ウ：対応する記述：需要に関係なく最大ロットで年1回集荷する
- エ：対応する記述：1台の車両が複数の仕入先を巡回して少量ずつ集荷し、積載率向上や小口多頻度調達の効率化を図る

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「積載効率が低くなりやすい。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「輸配送・集荷方式である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「小口多頻度との組合せが特徴である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。各仕入先ごとの個別直送をまとめることで輸送効率を上げられる。
総合解説：提示された評価理由は「1台の車両が複数の仕入先を巡回して少量ずつ集荷し、積載率向上や小口多頻度調達の効率化を図る」という記述に対応する。各仕入先ごとの個別直送をまとめることで輸送効率を上げられる。 この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0141 流通・物流・数値管理 > 物流・サプライチェーン | 難易度：応用

論点：パレット化・ユニットロード化の主な効果として最も適切なものはどれか。次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「ユニットロード化と反対である。」

- ア：対応する記述：荷姿をばらばらにして手荷役を増やす
- イ：対応する記述：商品識別を不可能にする
- ウ：対応する記述：輸送効率と無関係に梱包材だけを増やす
- エ：対応する記述：複数貨物を一つの取扱単位にまとめ、フォークリフト等で荷役回数・時間を減らし、積替えや保管を標準化しやすくする

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。ユニットロード化と反対である。
イ：この記述の評価理由は「識別コードやラベルと組み合わせて効率化する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「荷役・積載・保管効率が主な狙いである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「荷姿標準化は荷役生産性と物流連携を高める。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「荷姿をばらばらにして手荷役を増やす」という記述に対応する。ユニットロード化と反対である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0142 流通・物流・数値管理 > 物流・サプライチェーン | 難易度：応用

論点：物流の荷待ち時間が長く、トラック積載率も低い荷主の改善策として最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「経済産業省も荷待ち・荷役時間削減や積載効率向上を物流効率化の重要テーマとしている。」

- ア：対応する記述：荷待ち時間を記録せず、車両台数だけ増やす
- イ：対応する記述：予約受付・バース管理・出荷情報連携で待機を減らし、共同配送や配車最適化で積載率を高めるなど、荷主と物流事業者が工程を共同改善する
- ウ：対応する記述：積載率を上げるため納期を無視して無期限に貨物をためる
- エ：対応する記述：荷主は物流事業者の運行条件と無関係なので情報共有しない

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「非効率を温存したままコストを増やす可能性がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。経済産業省も荷待ち・荷役時間削減や積載効率向上を物流効率化の重要テーマとしている。
ウ：この記述の評価理由は「顧客サービスを損なう。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「荷主側の出荷計画や荷役も効率へ大きく影響する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「予約受付・バース管理・出荷情報連携で待機を減らし、共同配送や配車最適化で積載率を高めるなど、荷主と物流事業者が工程を共同改善する」という記述に対応する。経済産業省も荷待ち・荷役時間削減や積載効率向上を物流効率化の重要テーマとしている。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0143 流通・物流・数値管理 > POS・GMROI・店舗関連計算 | 難易度：基礎

論点：POSシステムで単品別販売情報を蓄積する主な利点として最も適切なものはどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「データは改善に役立つが不確実性は残る。」

- ア：対応する記述：在庫管理や発注とは利用目的が完全に無関係である
- イ：対応する記述：販売後の商品別実績を記録しないため集計が不要になる
- ウ：対応する記述：POS導入だけで需要予測誤差が必ずゼロになる
- エ：対応する記述：いつ・どの店舗で・どの商品が・どれだけ売れたかを迅速に把握し、発注、品揃え、価格、販促の改善に利用できる

答え・解説 正答：ウ

- ア：この記述の評価理由は「販売実績は補充・在庫管理に活用できる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「POSは販売実績を記録する仕組みである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。データは改善に役立つが不確実性は残る。
 - エ：この記述の評価理由は「販売時点情報を商品マスタ等と結びつけることで、単品管理の精度を高められる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
- 総合解説：提示された評価理由は「POS導入だけで需要予測誤差が必ずゼロになる」という記述に対応する。データは改善に役立つが不確実性は残る。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0144 流通・物流・数値管理 > POS・GMROI・店舗関連計算 | 難易度：基礎

論点：GTIN（JANコード）とJANシンボルの関係として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「商品識別用のバーコードである。」

- ア：対応する記述：GTINは店舗の住所を表すコードである
- イ：対応する記述：GTINはPOSで利用できない
- ウ：対応する記述：GTIN（JANコード）は商品を識別するコードで、JANシンボルはそのコードをPOS等で自動読取りするためのバーコード表現である
- エ：対応する記述：JANシンボルは顧客会員番号だけを表す

答え・解説 正答：エ

- ア：この記述の評価理由は「商品識別コードである。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - イ：この記述の評価理由は「POS精算、発注、検品、在庫管理等に利用される。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - ウ：この記述の評価理由は「コードそのものと、機械読取り用のシンボルは区別して理解する。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
 - エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。商品識別用のバーコードである。
- 総合解説：提示された評価理由は「JANシンボルは顧客会員番号だけを表す」という記述に対応する。商品識別用のバーコードである。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0145 流通・物流・数値管理 > POS・GMROI・店舗関連計算 | 難易度：標準

論点：ある店舗で1,000件の購買バスケットのうち、商品Aを含むものが200件、AとBを同時に含むものが80件だった。『Aを買った人がBも買う』というルール（confidence）として最も適切なものはどれか。 答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「 $\text{confidence}(A \rightarrow B) = 80 \div 200 = 0.40$ である。」

- ア：対応する記述：40％。AとBを同時購入した80件を、Aを購入した200件で割る
- イ：対応する記述：8％。80件を全1,000件で割った値はAとBの同時出現支持度に近い
- ウ：対応する記述：20％。A購入200件を全1,000件で割った値はAの支持度である
- エ：対応する記述：80％。同時購入件数80を百分率と誤解している

答え・解説 正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。 $\text{confidence}(A \rightarrow B) = 80 \div 200 = 0.40$ である。
イ：この記述の評価理由は「条件付き確率ではない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「B同時購入を反映していない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「分母が必要である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「40％。AとBを同時購入した80件を、Aを購入した200件で割る」という記述に対応する。 $\text{confidence}(A \rightarrow B) = 80 \div 200 = 0.40$ である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0146 流通・物流・数値管理 > POS・GMROI・店舗関連計算 | 難易度：標準

論点：あるカテゴリーの年間粗利益高が300万円、平均在庫高が原価ベース150万円である。GMROIを『粗利益高÷平均在庫高（原価）×100』で求めると最も適切なものはどれか。 次の評価理由を読んで、その理由が直接評価している記述を選べ。「式の分子分母が逆である。」

- ア：対応する記述：450％。粗利益と在庫を加算しており式が異なる
- イ：対応する記述：50％。平均在庫を粗利益で割っており逆数である
- ウ：対応する記述：200％。300万円÷150万円×100＝200％で、在庫投資1円当たり2円の粗利益を生んだと解釈できる
- エ：対応する記述：150％。300 - 150をそのまま割合とみなしている

答え・解説 正答：イ

ア：この記述の評価理由は「比率で求める。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。式の分子分母が逆である。
ウ：この記述の評価理由は「GMROIは在庫投資に対する粗利益の効率を表す。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：この記述の評価理由は「GMROIは差額ではなく比率である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「50％。平均在庫を粗利益で割っており逆数である」という記述に対応する。式の分子分母が逆である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0147 流通・物流・数値管理 > POS・GMROI・店舗関連計算 | 難易度：標準

論点：年間売上原価が1,200万円、平均在庫高が原価ベース300万円である。商品回転率を『売上原価÷平均在庫高（原価）』で求める場合、最も適切なものはどれか。次の根拠と最も直接対応する記述はどれか。「平均在庫に相当する金額が年間で何回売れて補充されたかをみる。」

- ア：対応する記述：0.25回。300÷1,200と逆に計算している
- イ：対応する記述：1,500回。売上原価と在庫を加算している
- ウ：対応する記述：4回。1,200万円÷300万円＝4回である
- エ：対応する記述：900回。売上原価と在庫の差額を回数とみなしている

答え・解説 正答：ウ

ア：この記述の評価理由は「回転率の式が逆である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「回転率は比率で求める。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：提示された評価理由が直接対応する記述である。平均在庫に相当する金額が年間で何回売れて補充されたかをみる。
エ：この記述の評価理由は「単位が合わない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
総合解説：提示された評価理由は「4回。1,200万円÷300万円＝4回である」という記述に対応する。平均在庫に相当する金額が年間で何回売れて補充されたかをみる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0148 流通・物流・数値管理 > POS・GMROI・店舗関連計算 | 難易度：標準

論点：あるカテゴリーの粗利益率が30%、売価ベースの商品回転率が年5回である。交差比率を『粗利益率×商品回転率』で求める場合、最も適切な値はどれか。学習メモには次の解説がある。この解説の対象となる記述を選べ。「両指標の積である。」

- ア：対応する記述：6%。30%を5で割っている
- イ：対応する記述：35%。30%と5回を単純加算している
- ウ：対応する記述：150%。30%×5回＝150%である
- エ：対応する記述：500%。粗利益率を考慮せず回転率だけを百分率化している

答え・解説 正答：エ

ア：この記述の評価理由は「式が逆である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
イ：この記述の評価理由は「掛け合わせる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
ウ：この記述の評価理由は「交差比率は粗利益率と回転率を組み合わせ、粗利益と在庫効率を同時にみる。」であり、提示された評価理由とは対応しない。
エ：提示された評価理由が直接対応する記述である。両指標の積である。
総合解説：提示された評価理由は「500%。粗利益率を考慮せず回転率だけを百分率化している」という記述に対応する。両指標の積である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0149

流通・物流・数値管理 > POS・GMROI・店舗関連計算 | 難易度：応用

論点：年間売上高9,000万円、売場面積300㎡の店舗について、売場面積1㎡当たり年間売上高として最も適切なものはどれか。次の診断理由に対応する判断はどれか。「9,000万円÷300は30万円である。」

ア：対応する記述：3万円/㎡。桁を1つ小さく計算している

イ：対応する記述：30万円/㎡。9,000万円÷300㎡=30万円/㎡である

ウ：対応する記述：2,700万円/㎡。売上と面積を掛けている

エ：対応する記述：300万円/㎡。桁を1つ大きく計算している

答え・解説

正答：ア

ア：提示された評価理由が直接対応する記述である。9,000万円÷300は30万円である。

イ：この記述の評価理由は「売場面積当たり売上は店舗・部門のスペース生産性を比較する基本指標である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

ウ：この記述の評価理由は「面積生産性は除算で求める。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「面積で正しく割る必要がある。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「3万円/㎡。桁を1つ小さく計算している」という記述に対応する。9,000万円÷300は30万円である。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03

0150

流通・物流・数値管理 > POS・GMROI・店舗関連計算 | 難易度：応用

論点：ある店舗で客数は前年比10%減ったが、客単価は20%上がった。他条件を無視し、売上＝客数×客単価とすると、売上の前年比として最も適切なものはどれか。答案の根拠として次の説明を用いる場合、直接支える又は誤りを指摘する対象の記述はどれか。「客数と客単価の変化は掛け合わせて売上への影響をみる。」

ア：対応する記述：120%。客数減少を無視している

イ：対応する記述：約108%。0.90×1.20=1.08なので、売上は約8%増える

ウ：対応する記述：110%。10%減と20%増を単純に差し引いている

エ：対応する記述：90%。客単価上昇を無視している

答え・解説

正答：イ

ア：この記述の評価理由は「10%減を反映していない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

イ：提示された評価理由が直接対応する記述である。客数と客単価の変化は掛け合わせて売上への影響をみる。

ウ：この記述の評価理由は「比率変化は乗算するのが正確である。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

エ：この記述の評価理由は「20%上昇を反映していない。」であり、提示された評価理由とは対応しない。

総合解説：提示された評価理由は「約108%。0.90×1.20=1.08なので、売上は約8%増える」という記述に対応する。客数と客単価の変化は掛け合わせて売上への影響をみる。この設問では、結論から根拠を選ぶだけでなく、根拠から対応する結論を逆向きに特定する力を確認している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-03